

GRUMMAN F-14 TOMCAT

1/32nd AIRCRAFT SERIES NO.1

グラマンF-14トムキャット



アメリカ海軍がF-4ファントムIIにかわる主力艦上戦闘機として開発、装備したのがグラマンF-14トムキャットです。ほぼ同時期にアメリカ空軍の主力戦闘機として採用されたF-15Aイーグルと共に世界最強の戦闘機のひとつにあげられる80年代のアメリカの代表的戦闘機と言えます。

F-4ファントムIIの後継機開発は1960年代に入ってすぐ始められていました。当初はゼネラル・ダイナミクス社とグラマン社が共同で開発していたF-111Bが次期主力機となる予定でしたが、重量等の問題で開発が中止されたのが1968年のことでした。そこで急転、新しく後継機開発をスタートすることになった海軍は各メーカーに海軍の要求に基づく案の提出を依頼。5社がこれに応じ、1969年1月にグラマン社が採用となり、70年12月には試作1号機が初飛行に成功したのです。初飛行の直後にメカニカルトラブルで1号機が墜落するという事故も発生しましたが、その後、開発は順調に進み、71年には量産機が発注され、ここに、F-14Aトムキャットが誕生したのでした。

F-14Aトムキャットはさまざまな特徴を持っていますが、その多くは艦載機ゆえに与えられたものであると言っても言いすぎではないでしょう。もっとも大きな特徴である可変後退翼の採用もそのひとつです。というのも、艦載機は航空母艦という限られたスペースで離着艦を行わなければなりません。カタパルトによる発進、アレスティングワイヤーによる着艦はそれぞれ、速度が低ければそれだけ楽になります。しかし、戦闘機である以上、マッハの最高速も必要です。この相反する条件を満足させるためには、多少機構が複雑になっても可変後退翼を採用するメリットは大でした。F-14Aの可変翼は20°~68°の範囲で可動しますが、離着艦時は20°まで開き、発艦はわずか100m足らずで可能。また、カタパルトの助けがない地上で離陸する場合も滑走距離は500mにも達しません。この結果、これまでF-4を搭載できなかった中型空母にも搭載が可能となり、戦闘力の向上につながったのです。また、可変翼の利点にはすぐれた運動性も見逃すことはできません。F-14

Aの可変翼は飛行中MSP（マッハ・スウィープ・プログラマー）と呼ばれるコンピューターにより常にその時の飛行状態にもっとも効率の良い角度に保たれます。F-4に比べてずっと大きな飛行機であるにもかかわらず、最小旋回半径で40%も小回りがきくという点だけ取っても運動性の良さを知ることができます。格闘戦ともなれば、その威力は存分に発揮されるに違いありません。さらに、可変翼は駐機中には75°まで狭められ、艦上でのスペースを節約します。

ウェポンシステムもF-14Aの特徴のひとつです。中心となるのはAWG-9と呼ばれるコンピューターですが、これは失敗に終わったF-111B用に開発されたものをさらに改良、高性能化したもので、F-14Aが搭載される各種兵器をコントロールしている頭脳と言えます。このコンピューターは実に24個の違った目標を一度に処理し、その中から6目標を選んで同時に攻撃可能という能力を持っています。その能力をフルに発揮するため、後席に乗るNFO（ネイバル・フライト・オフィサー）は、これの操作に専念するようになっているのです。最大216kmにも及ぶ探知能力を持つレーダーと赤外線センサー、そして、F-14Aの主武装と言える最大射程126~180kmに達するAIM-54フェニックスミサイルの装備は攻撃力を一層高いものとしています。AIM-54フェニックスミサイルはF-14と共に開発が進められたもので、59kgという大炸薬量を持った空対空ミサイルとしては異例の大きさであるのが特徴です。また、アクティブ・レーダー・ホーミング装置を持ち、最終的には独自に追尾攻撃する能力を持っています。その他の武装としては、中、短距離用としてスパロー、サイドワインダー、さらに格闘戦用に20mmバルカン砲1門を装備。このような強大な攻撃力を有しているのもF-14Aが空母を中心とする艦隊の広い空域を防衛しなければならぬからこそと言えるでしょう。

F-14Aのエンジンはプラット&ホイットニーのTF30-P-412A型ターボファンエンジンです。ターボファンエンジンを装備したアメリカ海軍機はF-14Aが最初の戦闘機となりました。このエンジンはF-111にも使用されて

いるエンジンですが、胴体左右に並列にかなり離して2基が装備され、そのことがF-14Aの独特なスタイルを形作っています。離して装備されているのは吸排気の効率を高める目的がひとつにはあったようです。また、エンジンの効率を高めるためエア吸入ダクトのランプを可変式とし、コンピューターでこれを調節。各速度で最適な流入量を確保するようふうがされています。

ターボファンエンジンの装着は燃費の向上というメリットも生んでいます。もちろん、機体内部の燃料タンク容量を増やし、可変翼内部も燃料タンクとして使用していることもありますが、エンジンの燃費向上とともに機内燃料のみでの戦闘行動半径はF-4に比べ80%もよくなっているのです。航続距離の向上はそれだけ防衛範囲が広がることになり、艦載機としてももっとも重要な特徴と言えるでしょう。

実戦部隊に配備が開始されたのは1972年12月からです。1974年9月から翌75年5月にかけて原子力空母エンタープライズに搭載されて西太平洋とインド洋を航海したのがF-14Aの初航海でしたが、この間、75年4月には南ベトナムで実戦に初参加しています。1980年には16個飛行隊が完成し、最終的には521機、18個飛行隊と2個の訓練飛行隊を装備する予定と言われていました。また、その高性能が買われ、イラン空軍でもF-14Aが採用され、80機が引き渡されましたが、革命の勃発により、その後F-14Aがどうなったかはさだかではありません。

さて、すぐれた運動性、強力なウェポンシステム、大きな航続性といった特徴はまさに最強の艦上戦闘機と言っても過言ではないでしょう。しかし、すでに、より強力なエンジンに換装する計画やその後にはよりすぐれたコンピューターの搭載によりウェポンシステムを強化する計画などがあると言われます。それは、F-14Aがまだまだ余力を持った機体であること、そして、何よりアメリカ海軍が待ち望んでいたのにかにマッチした機体であったかが伺い知れます。グラマンF-14Aトムキャットは海軍の、また、戦闘機の歴史に残る傑作機のひとつと言えるでしょう。



《作る前にお読み下さい》

★お買い求めの際、また組立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組立てを始められた後は、製品の返品、交換などには応じかねます。★このキットには接着剤が含まれていません。接着にはプラスチックモデル用セメント、タミヤセメントを別にお求め下さい。

★このキットは着陸状態または飛行状態のどちらかを選ぶことができます。組み立て途中では《着陸状態》または《飛行状態》と書いて組み立てを分けてあるところがあります。あらかじめどのような状態にするのか決めておいて下さい。また取りつけるミサイルの種類やエアブレーキなどの開いた状態、閉じた状態なども選ぶこととなりますので説明図を一通り読み、組み立て方法をよく理解してから組み立て作業に入して下さい。

★ナイフ、ピンセット、ヤスリ、キリ等を用意して下さい。
★部品をランナー（枝）から切りはなす場合は手でもぎとらないでナイフやニッパーでいねいに切り取って下さい。

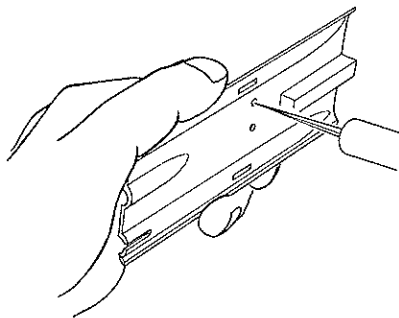
このマークは塗装指示のマークです。

各部の塗装色名はすべてタミヤカラーの色名で指示されています。色の正確なタミヤのカラーをご使用下さい。

★塗料は必ずプラスチックモデル用塗料をお使い下さい。

2

①で選んだミサイル搭載のタイプに合わせて、機体下部とB12にミサイルをとりつけるための穴をあけておきます。青い矢印は各タイプとも共通です。黒い矢印はAとCタイプ専用の穴です。指示に従って部品の裏からキリやナイフなどで穴をあけます。



TAMIYA COLOR

タミヤカラー（エナメル塗料）
筆塗り塗装にぴったり。のびが良く筆ムラ、泡立ちもほとんどなし。つやの良さもエナメル塗料ならではの、もちろんスプレー塗装もOK。



TAMIYA CEMENT 40ml

タミヤセメント（ピン入り）
プラスチックモデル用液体接着剤。安定性のいい使い易い四角いピン入り、容量もお徳用です。



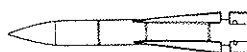
1 ミサイル搭載の選択

★このキットのF14が搭載できるミサイルの組み合わせは下図にあるように4種類できます。組み立てに入る前にどのタイプにするか決めておいて下さい。実機の写真を見ると色々なミサイルのとりつけ方をしています。それらを参考にあなた自身の武装を作るのも良いでしょう。

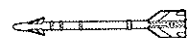
スパーロー（中距離用）



フェニックス（長距離用）



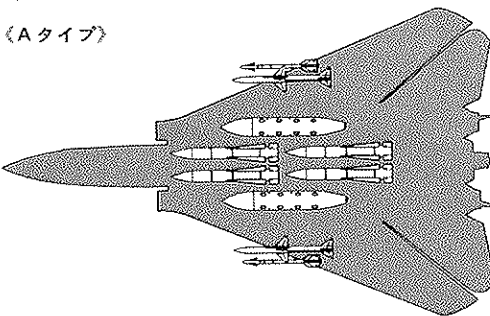
サイドワインダー（短距離用）



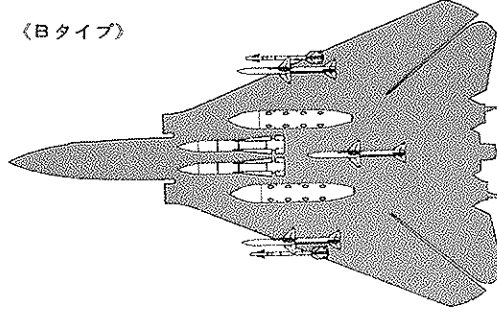
増槽（長距離飛行用）



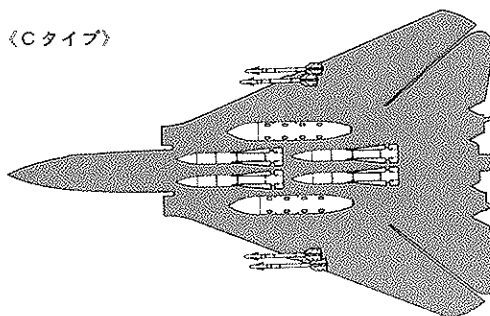
《Aタイプ》



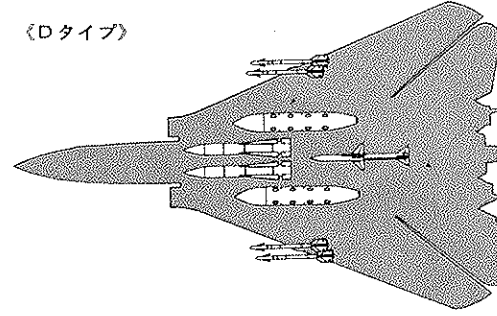
《Bタイプ》



《Cタイプ》



《Dタイプ》



2 ミサイルとりつけ用の穴あけ

★①で選んだミサイル搭載のタイプに合わせて図の矢印に従って穴をあけます。

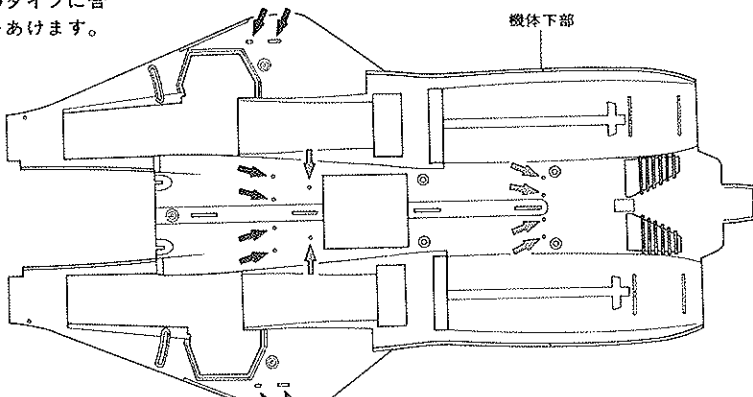
← 各タイプとも共通です。

← AおよびCタイプにする方だけ穴をあけます。



B12

部品D12をとりつける穴です。部品の合わせピンに合わせて穴をあけます。

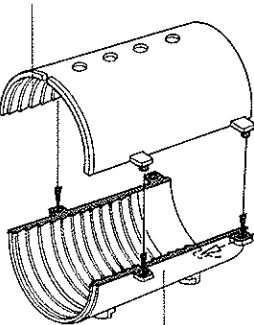


機体下部

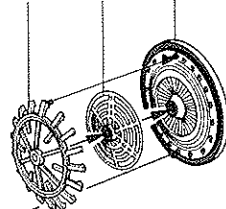
3 機体後部部品のくみ立て

《エンジンダクト》2個作ります

F20



F11

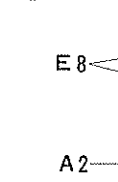


F23

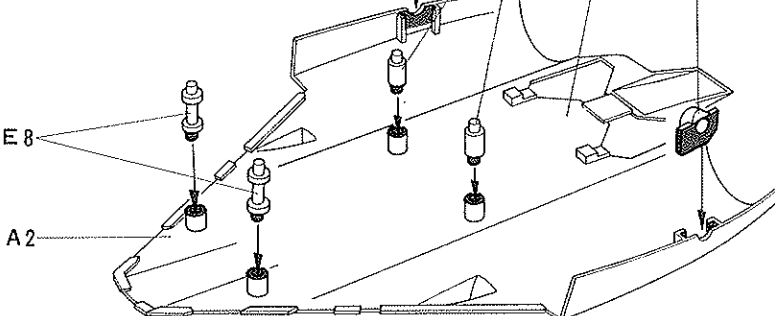
F24

エンジンダクトは全体をガンメタルで塗装します。

F21



《機体上部後側》



D3

E4

フラット

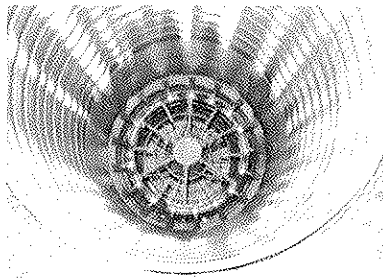
ホワイト

D2

A2

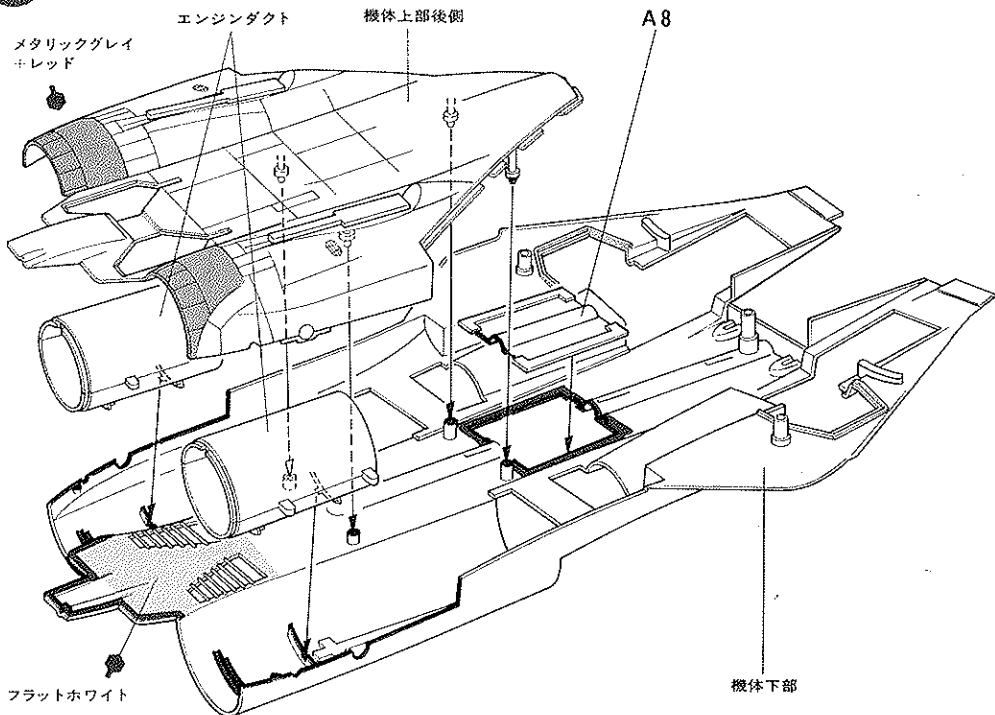
4

《実機写真》



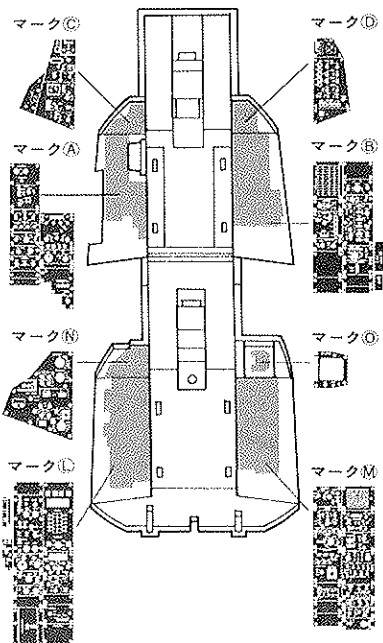
4

エンジンダクトのとりつけ

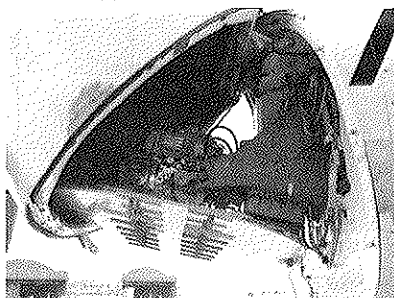


6

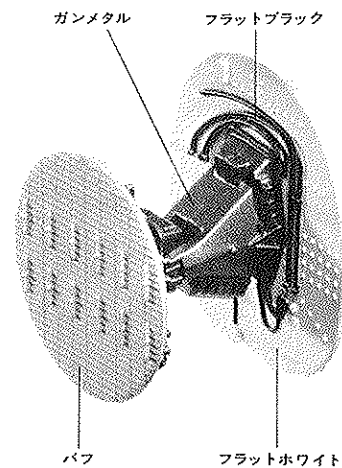
《コクピットのマーキング》



《実機写真》

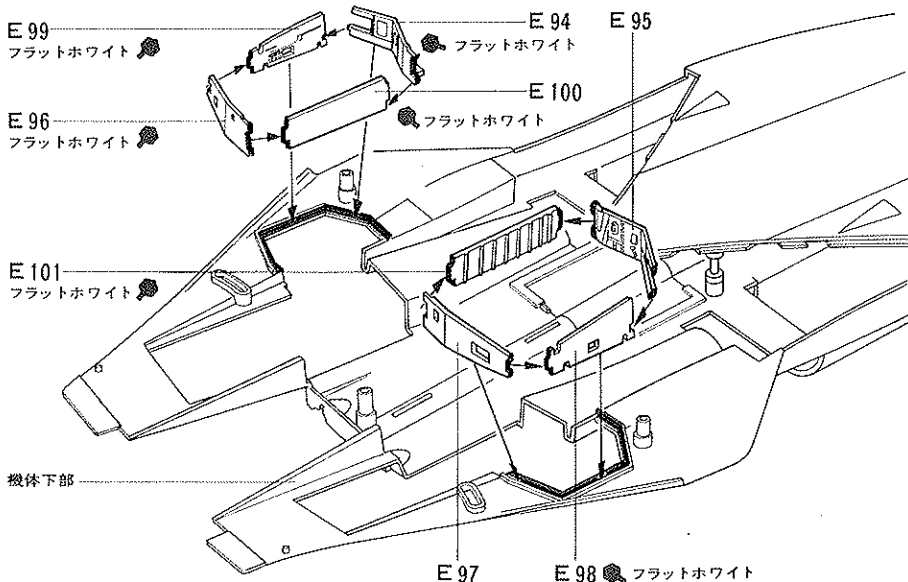


《レーダーの塗装》



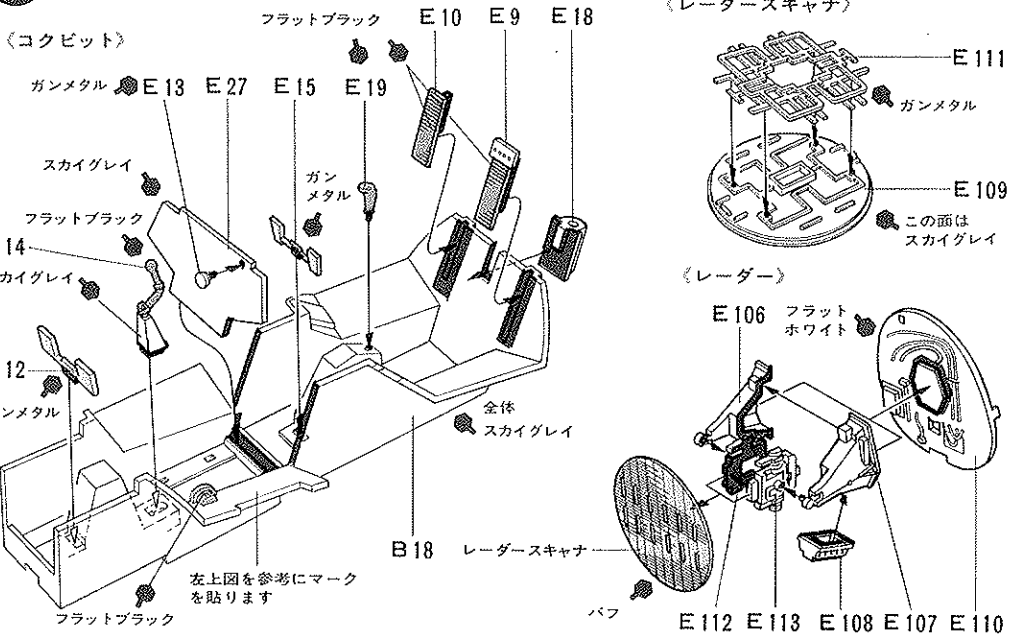
5

主脚格納庫のくみ立て (着陸状態にする方だけ組み立てます)



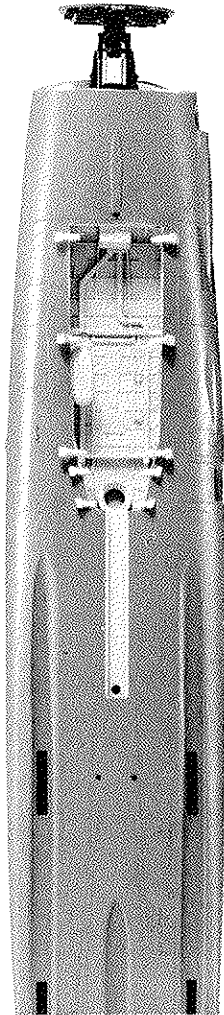
6

コクピットのくみ立て

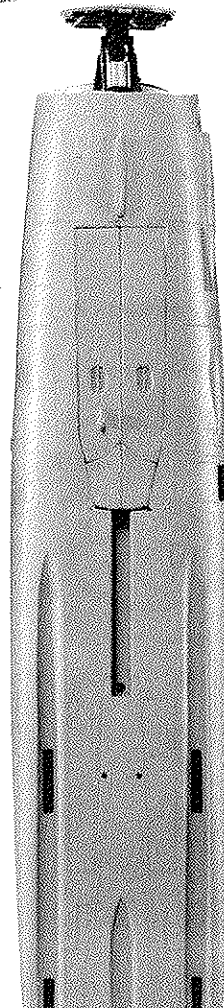


8

〈着陸状態〉

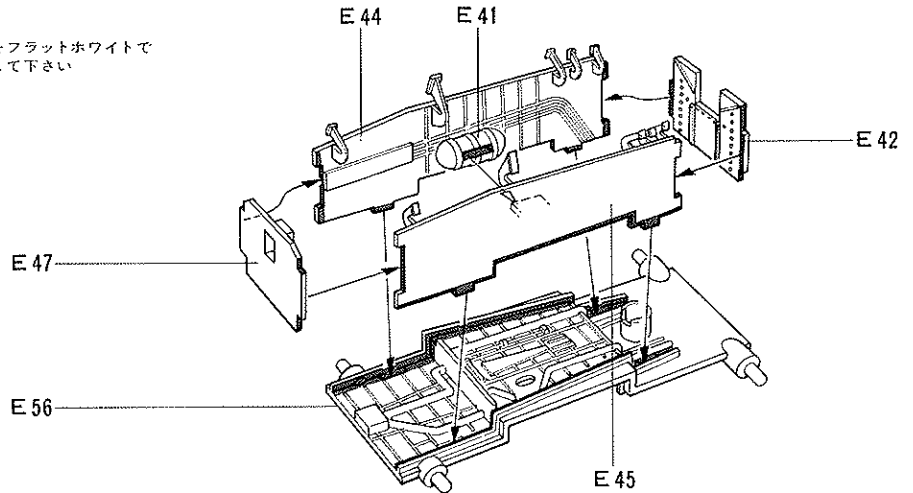


〈飛行状態〉



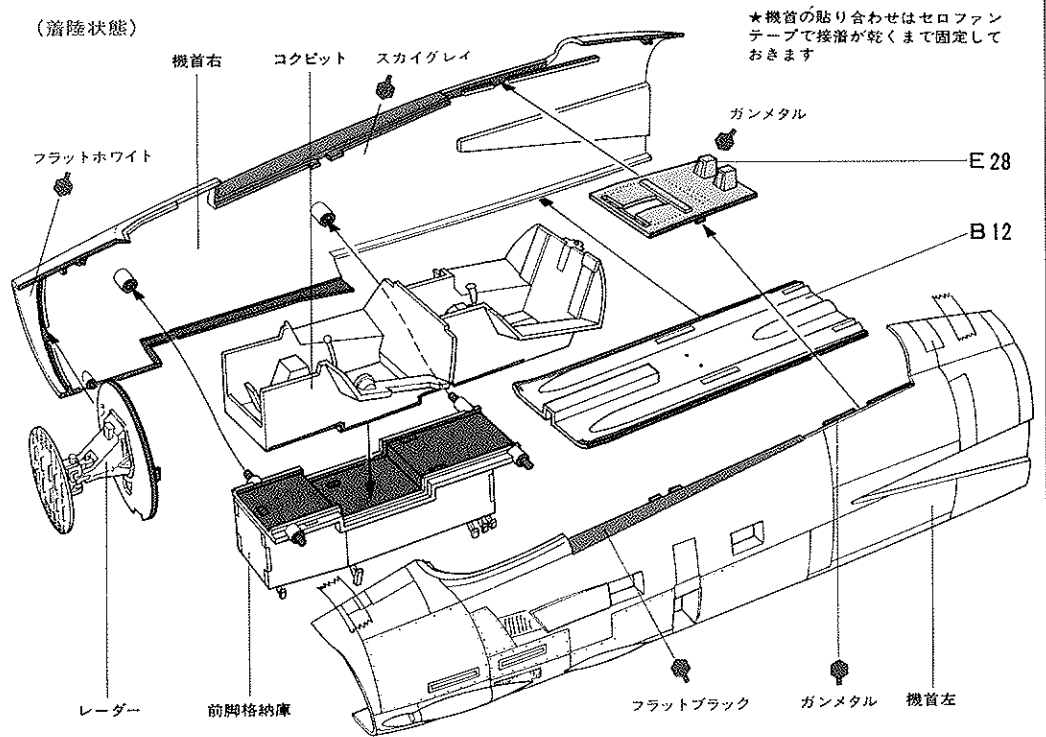
7 前脚格納庫のくみ立て (着陸状態にする方だけ組み立てます)

全体をフラットホワイトで塗装して下さい

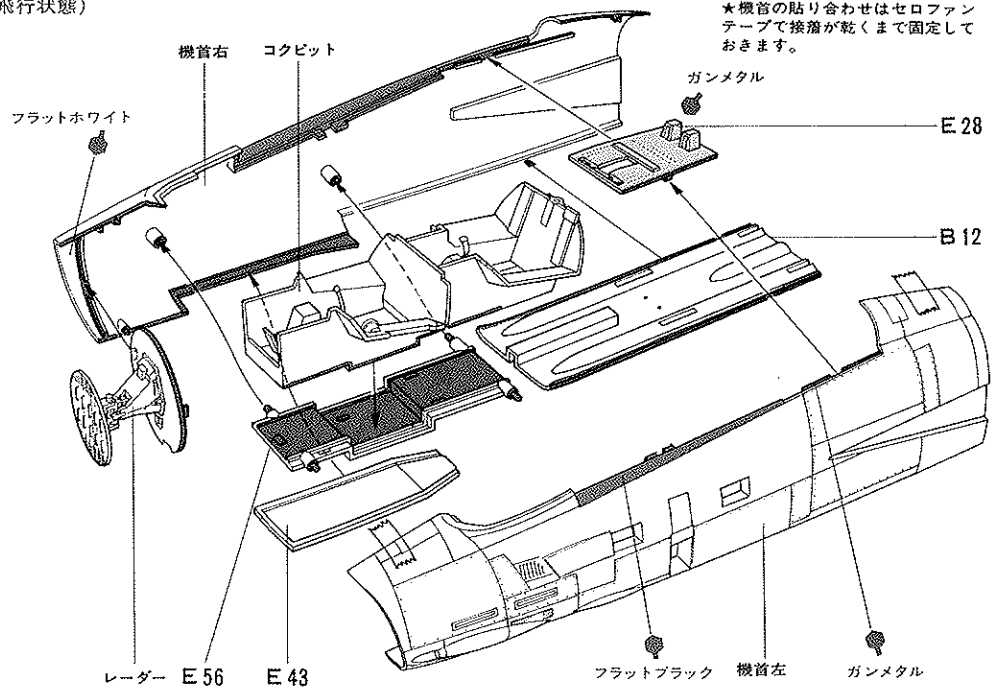


8 機首のくみ立て (着陸状態または飛行状態のどちらかを選んで組み立てます)

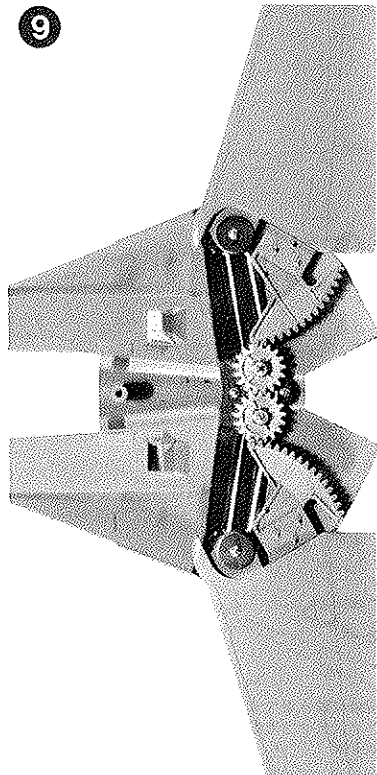
(着陸状態)



(飛行状態)

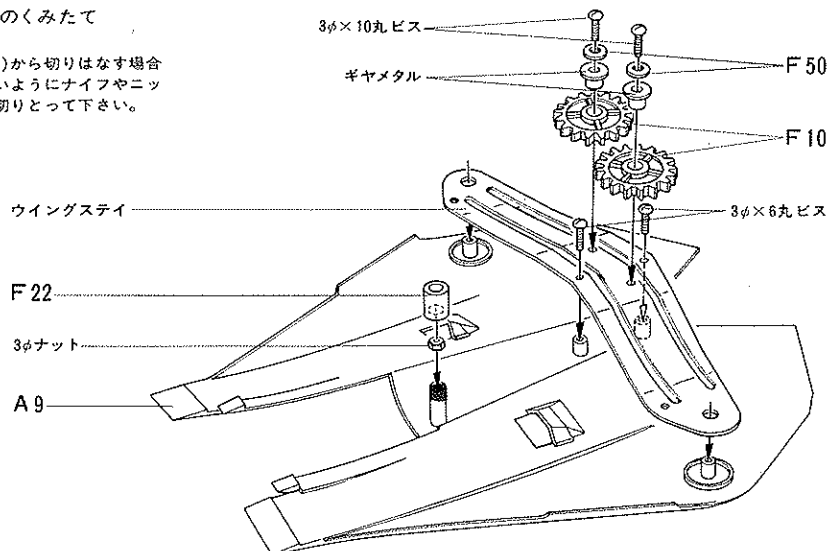


9



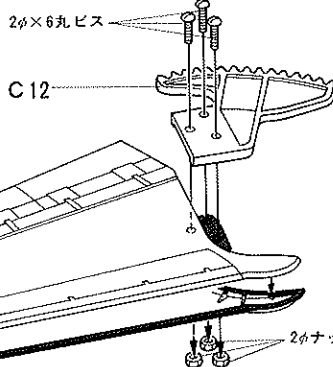
9 機体上部前側のくみため

★部品F10をランナー(枝)から切りはなす場合ランナー部分がのこらないようにナイフやニッパーなどで、ていねいに切りとって下さい。

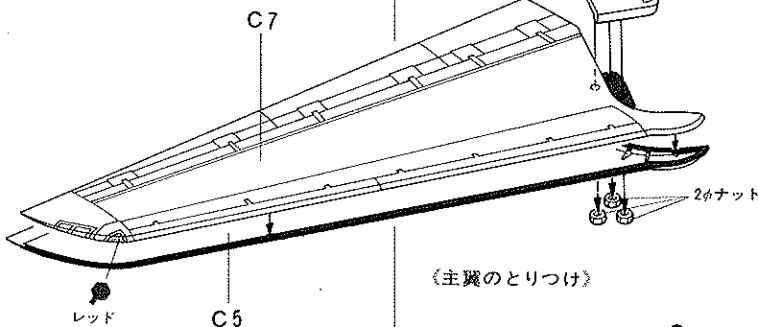
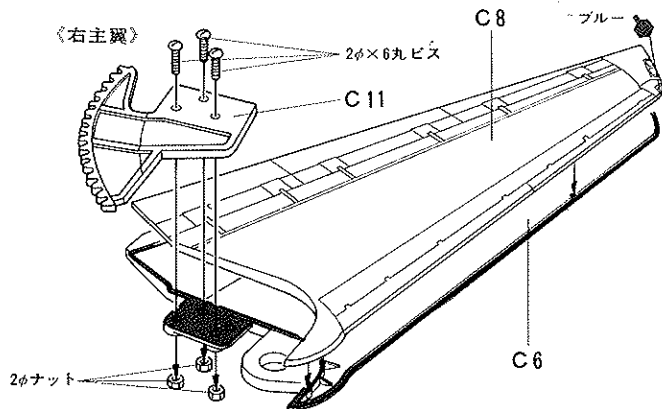


10 主翼のくみためととりつけ

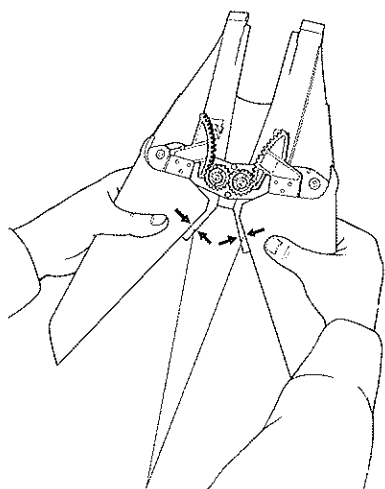
《左主翼》



《右主翼》

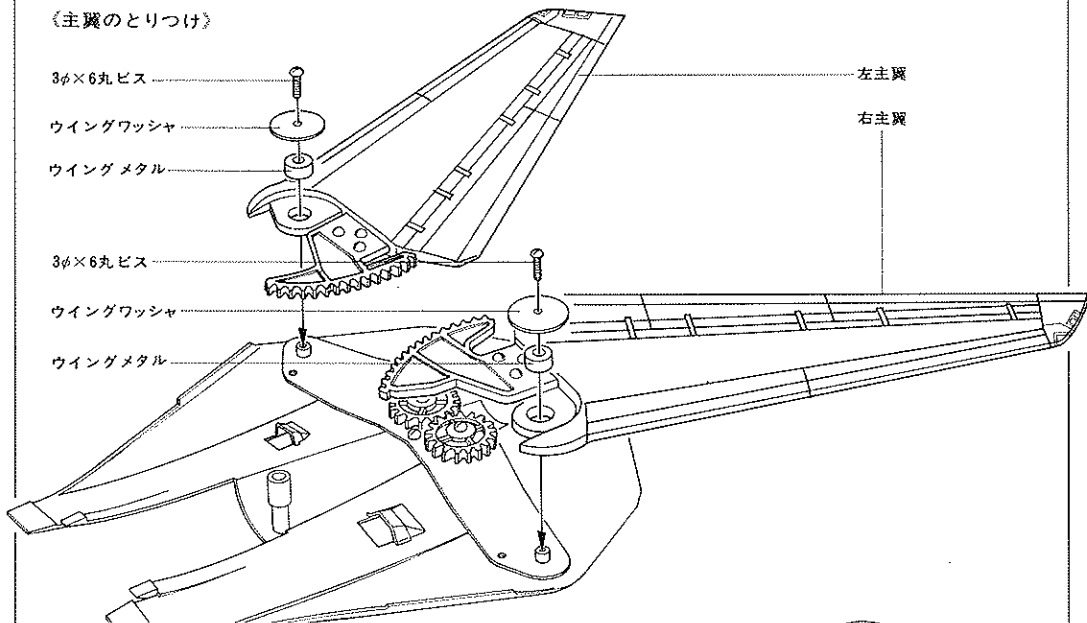


《主翼の位置の決めかた》

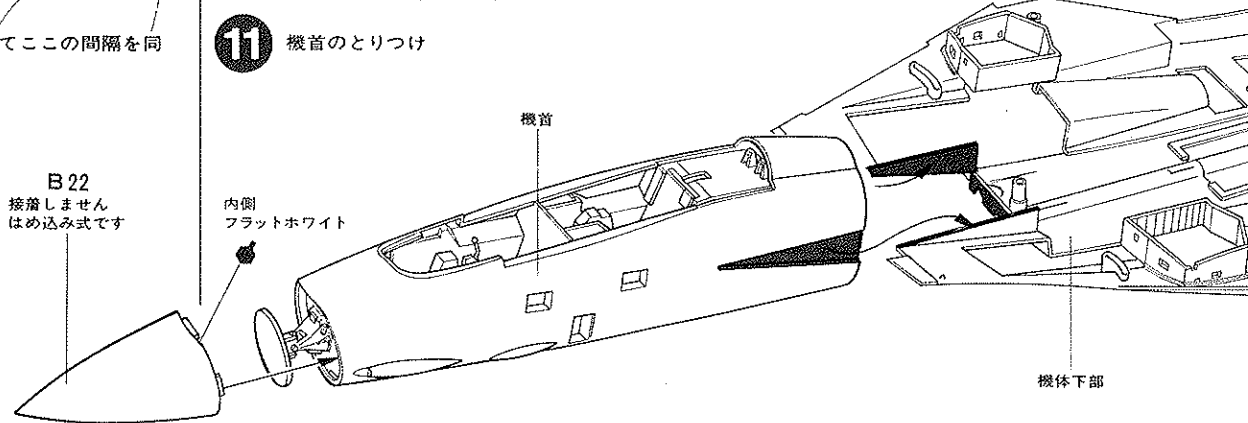


主翼を閉じた形にしてこの間隔を同じにしてください。

《主翼のとりつけ》



11 機首のとりつけ

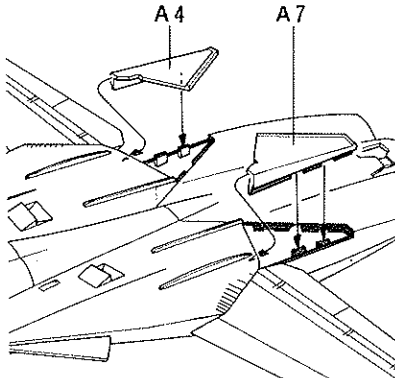


B22 接着しません はめ込み式です

12

実機では主翼の動きに応じてキャンパス(布)部分も動きます。A1、A3は主翼を閉じた状態の部品です。これを使った場合は主翼は開閉させることができます。A4、A7は主翼を開いた状態の部品です。これをつけた場合には主翼は開閉しません。どちらかを選んで下さい。またどの状態にもできるよう接着せずに取付けてもよいでしょう。

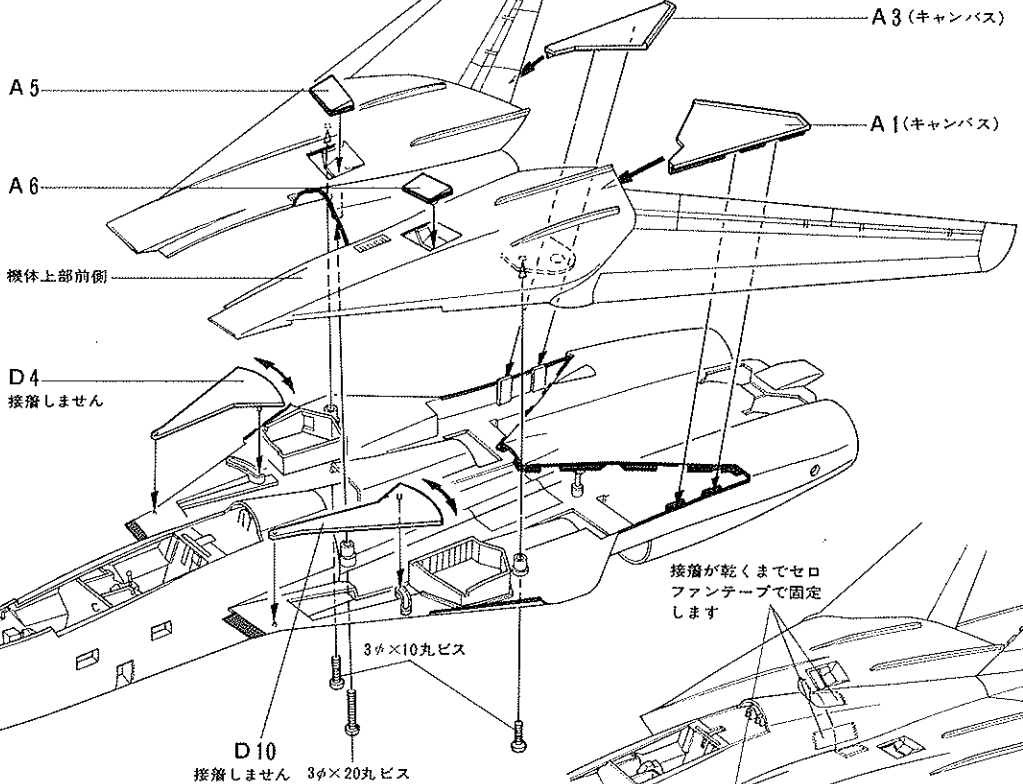
〈主翼を開いた時〉



12

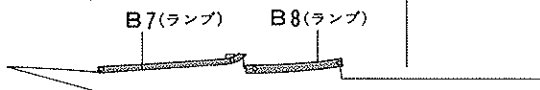
機体上部前側のとりつけ

〈主翼を閉じた時〉

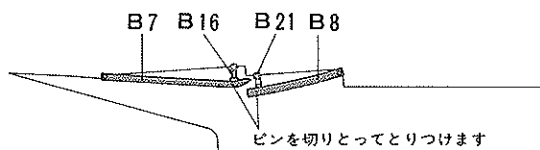


13

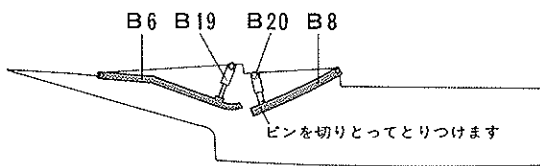
〈ランプのとりつけ位置〉
〈音速以下の時〉



〈音速の時〉

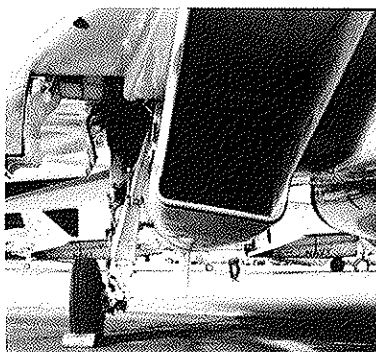


〈超音速の時〉



ランプはエンジンへの空気流入量を調節するために超音速の時と音速、音速以下の時では角度が変わります。上の図を参考に好きな状態に組んで下さい。

〈実機写真〉

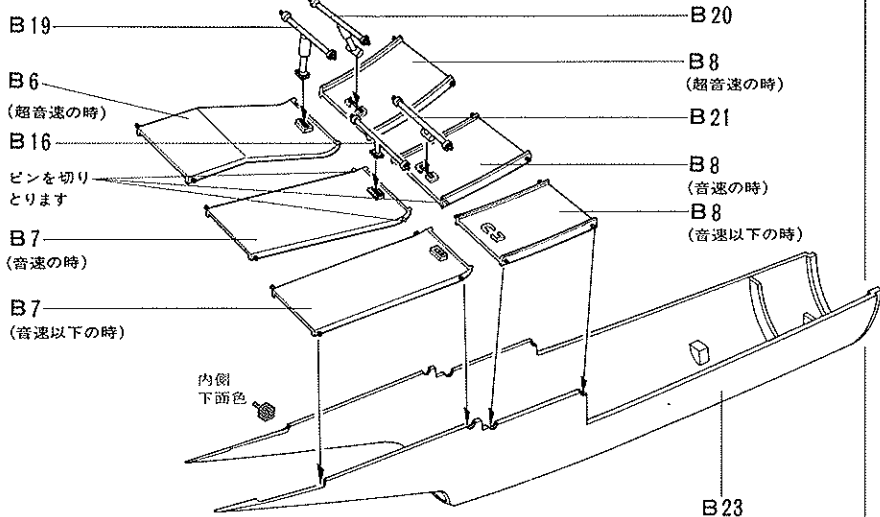


13

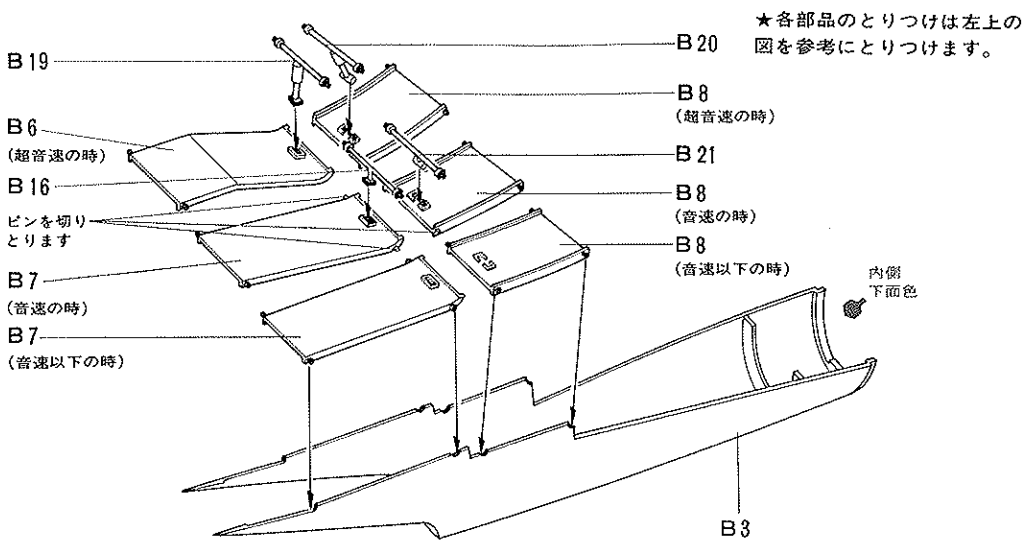
エアインテークのくみ立て

各部品は下面色で塗装して下さい

〈エアインテーク右〉

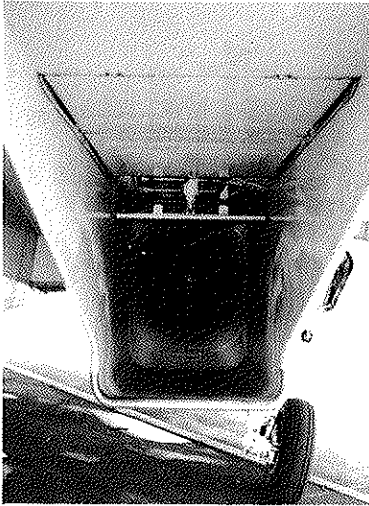


〈エアインテーク左〉



★各部品のとりつけは左上の図を参考にとりつけます。

15



エアインテーク左
接着剤が乾くまでセロファン
テープで固定しておきます。

エアインテーク右
接着剤が乾くまでセロファン
テープで固定しておきます。

G2 E119 E118

レッド

E92
この図のくみたての
最後にとりつけます

14 水平尾翼のくみたて

〈左水平尾翼〉

D20

D21

〈右水平尾翼〉

D22

D19

15 エアインテークのとりつけ

マーク48

マーク48

C3

● 内側下面色
● 左水平尾翼
接着しません

C4

● 内側下面色

★水平尾翼は接着剤が
乾くまで機体にとりつ
けないで下さい。

★エアインテーク右、
左は接着剤がかわくま
でセロファンテープで
固定しておきます。

下面色

機体

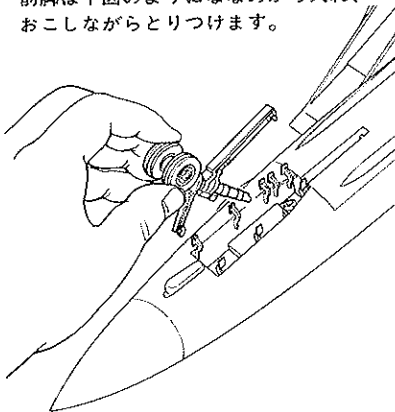
F9 フラットアルミ E93 この図のくみたての最後にとりつけます

右水平尾翼
接着しません

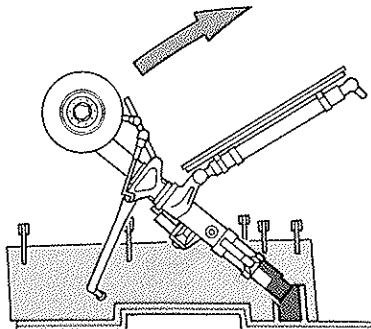
フラットホワイト

17

前脚は下図のようになめから入れ、
おこしながらとりつけます。



前脚とりつけ側面図



16 前脚のくみたて (着陸状態にする方だけ組み立てます)

● 全体をフラットホワイト
で塗装して下さい

● タイヤとE55以外はすべて
フラットホワイトです

E37

E51

E46

E52

クロームシルバー

前脚シャフト

塗装し
ません

G8

E38

E52

F37

ゴムタイヤ小

E53

E55

下面色
ふち
フラット
レッド

F37

E54

E36

ゴムタイヤ小

17 前脚のとりつけ (着陸状態にする方だけ組み立てます)

● 各脚カバーの内側はフラットホワイトです
ふちはフラットレッドで塗装します

前脚

E48

E50

機首

E39

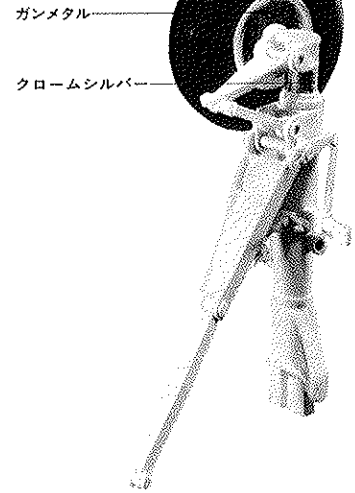
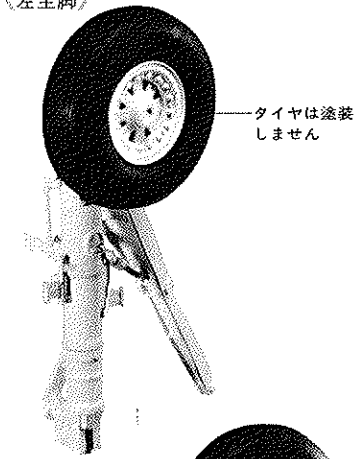
E49

E40

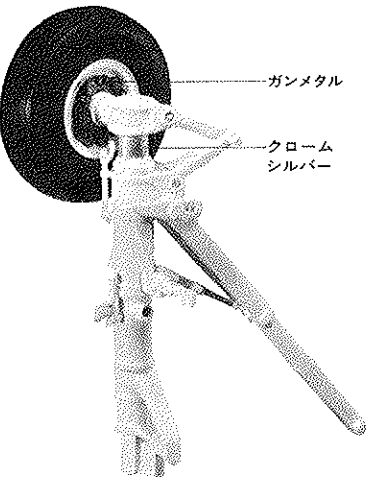
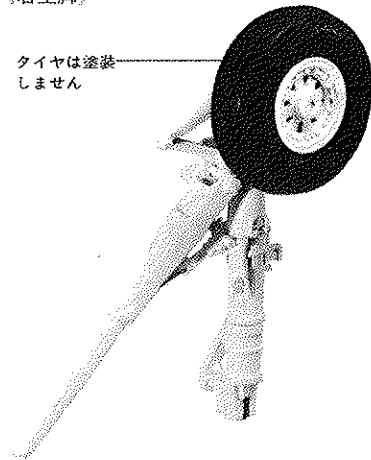
〈脚の塗装〉

塗装指示のない所はすべてフラットホワイトで塗装します。

〈左主脚〉

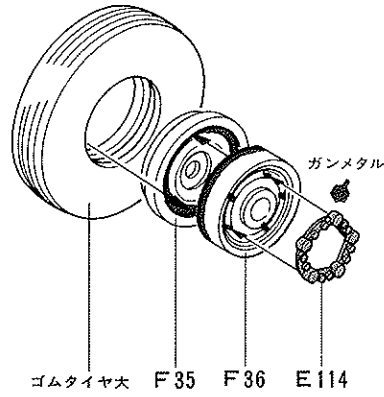


〈右主脚〉

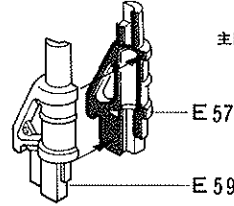


18 左主脚のくみたて1 (着陸状態にする方だけ組み立てます)

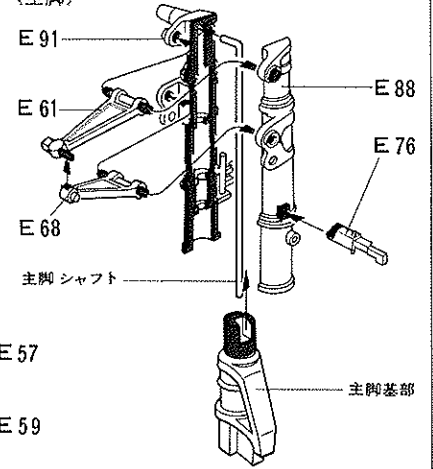
〈主輪〉



〈主脚基部〉

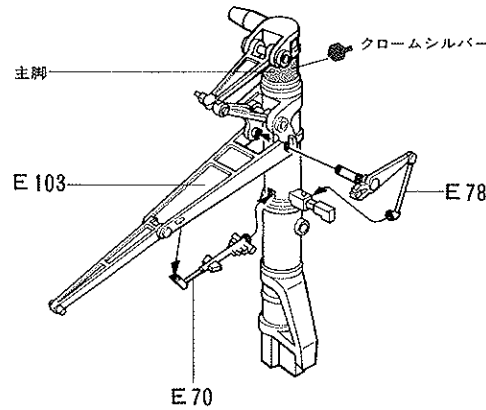


〈主脚〉

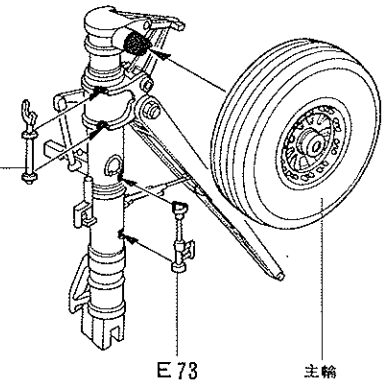


19 左主脚のくみたて2 (着陸状態にする方だけ組み立てます)

〈ドラグストラットのとりつけ〉

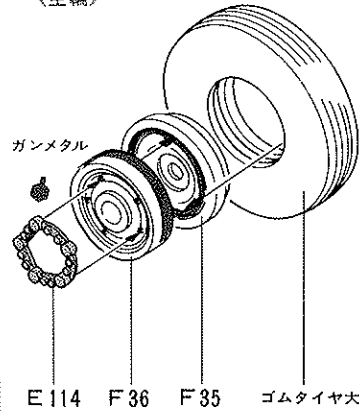


〈主輪のとりつけ〉

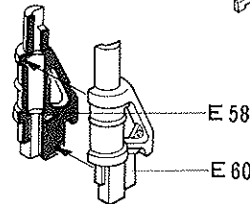


20 右主脚のくみたて1 (着陸状態にする方だけ組み立てます)

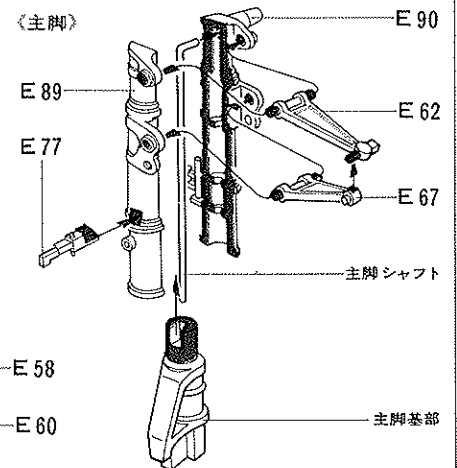
〈主輪〉



〈主脚基部〉

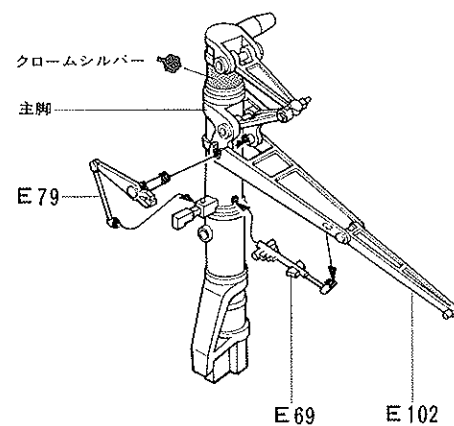


〈主脚〉

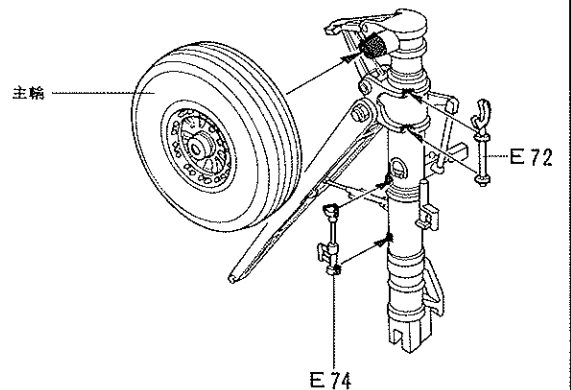


21 右主脚のくみたて2 (着陸状態にする方だけ組み立てます)

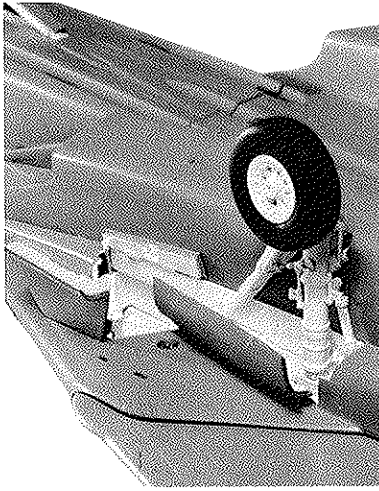
〈ドラグストラットのとりつけ〉



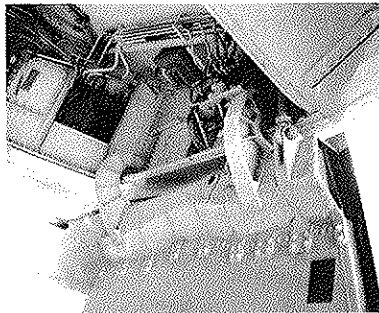
〈主輪のとりつけ〉



22



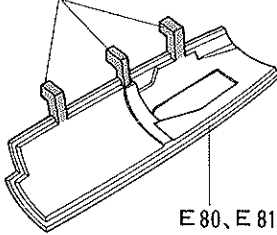
《実機写真》



《飛行状態》

E 80、E 81は機体にとりつける前に下図のようにヒンジを切りとって下さい。

切りとります

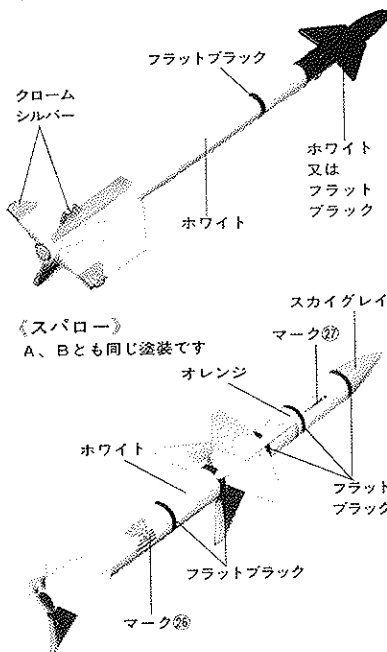


E 80、E 81

23

塗装とマーキング

《サイドワインダー》



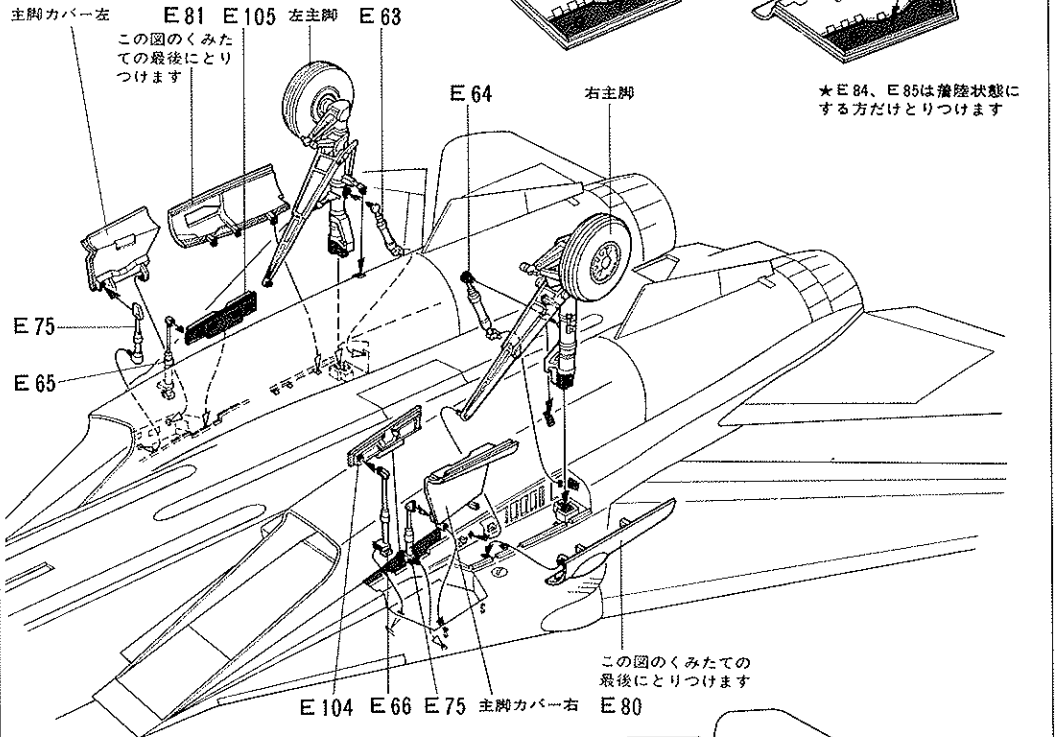
《スパロー》
A、Bとも同じ塗装です

22

主脚のとりつけ

《着陸状態》

各脚カバーの内側はフラットホワイトです。ふちはフラットレッドで塗ります。



《飛行状態》

E 81
左図を参考にヒンジを切りとります

E 82

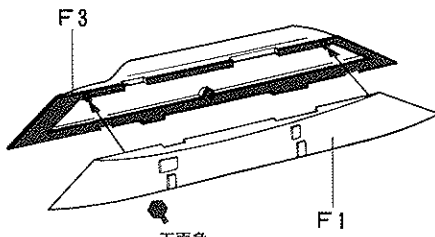
E 86

E 55

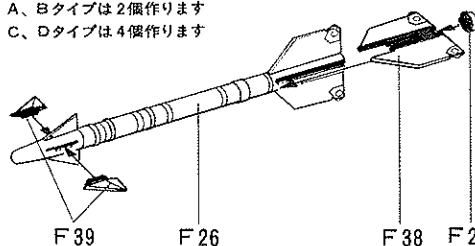
《飛行状態》

23 ミサイルのくみだて

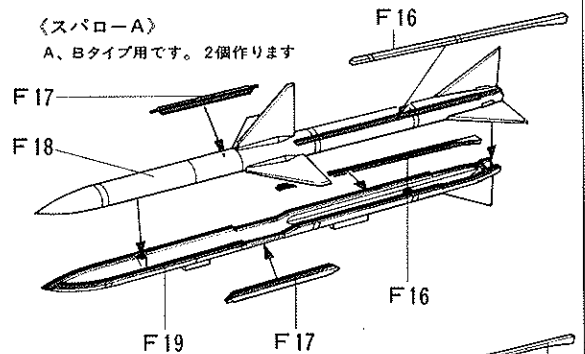
《スパローパイロン》 A、Bタイプ用です
2個作ります



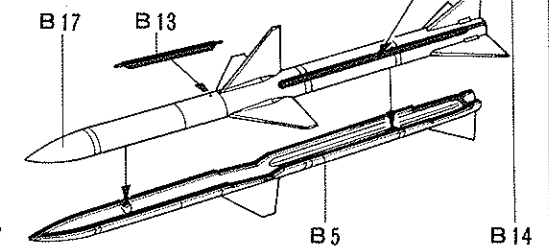
《サイドワインダー》
A、Bタイプは2個作ります
C、Dタイプは4個作ります



《スパロー-A》
A、Bタイプ用です。2個作ります



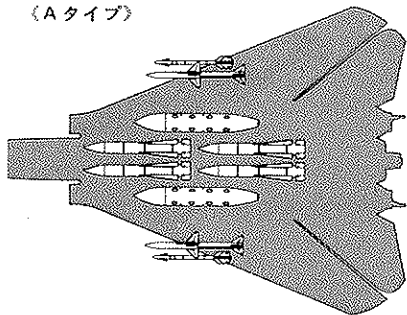
《スパロー-B》 B、Dタイプ用です



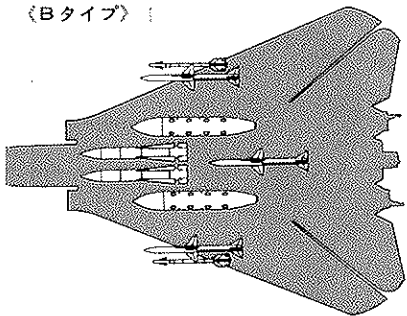
《ミサイルのとりつけの確認》

①で選んだミサイル搭載のタイプを下図でもう一度確認して下さい。選んだタイプに応じてミサイルの組み立てやとりつけを行って下さい。

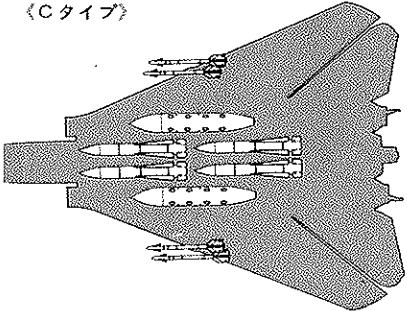
《Aタイプ》



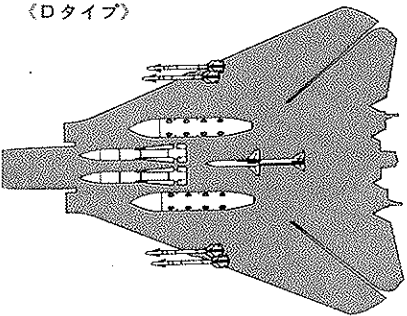
《Bタイプ》



《Cタイプ》



《Dタイプ》



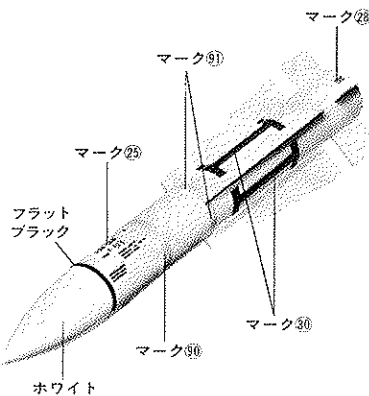
サイドワインダー

スパロー

増槽

フェニックス

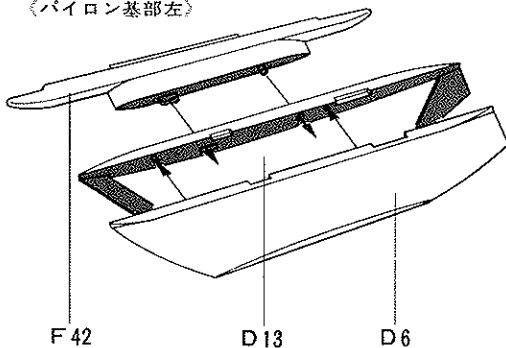
26 《フェニックスの塗装とマーキング》



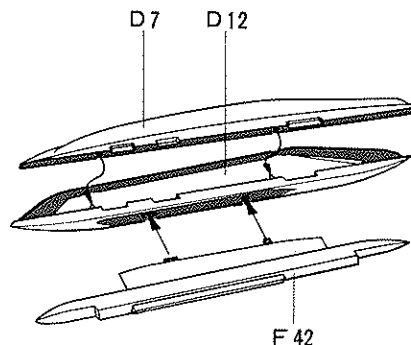
24 バイロン基部のくみ立て

パイロン基部は全体を下面色で塗装して下さい

《パイロン基部左》



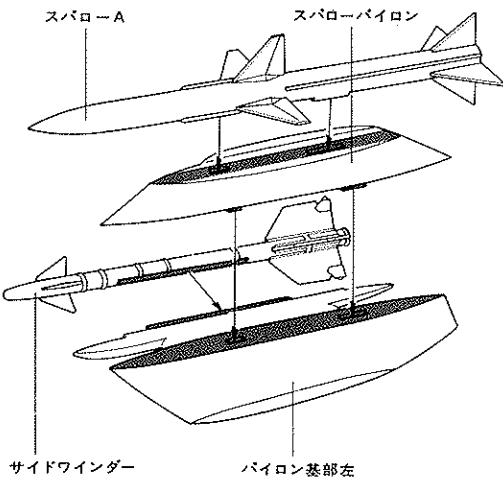
《パイロン基部右》



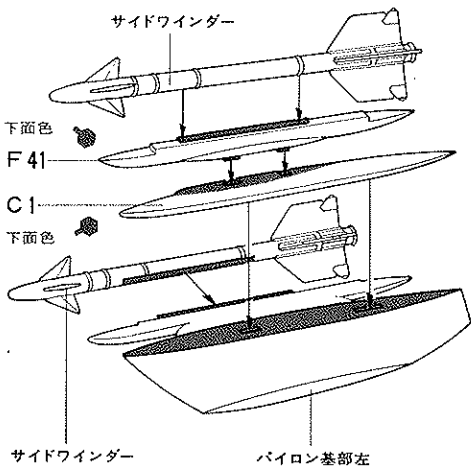
25 ミサイルのとりつけ

★①で選んだミサイル搭載のタイプに合わせて組み立てて下さい。

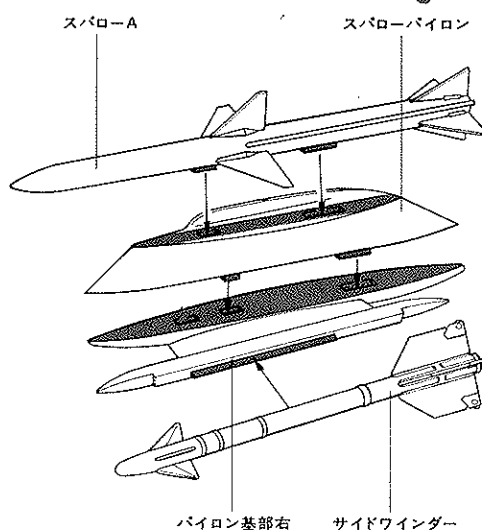
《スパローパイロン左》 A、Bタイプ用です



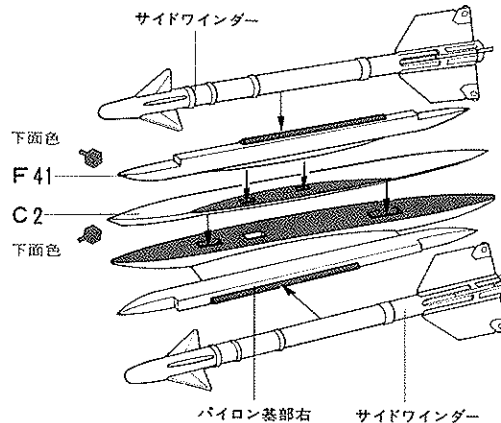
《サイドワインダーパイロン左》 C、Dタイプ用です



《スパローパイロン右》 A、Bタイプ用です



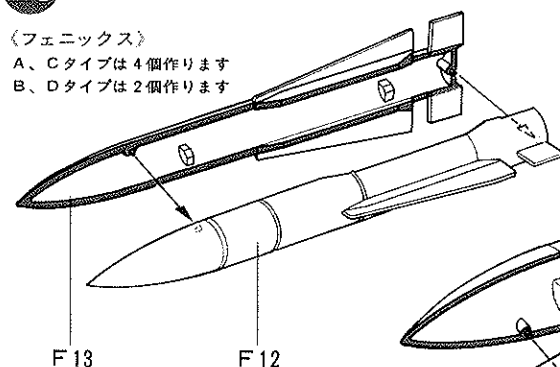
《サイドワインダーパイロン右》 C、Dタイプ用です



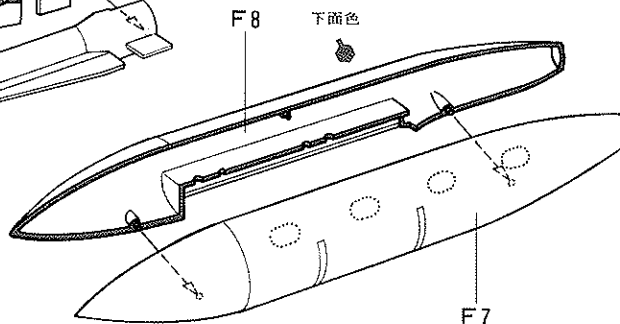
26 フェニックスと増槽のくみ立て

《フェニックス》

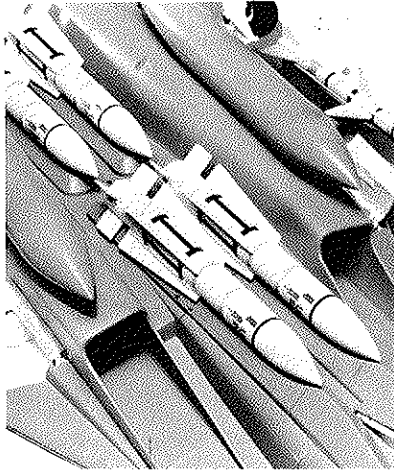
A、Cタイプは4個作ります
B、Dタイプは2個作ります



《増槽》 2個作ります

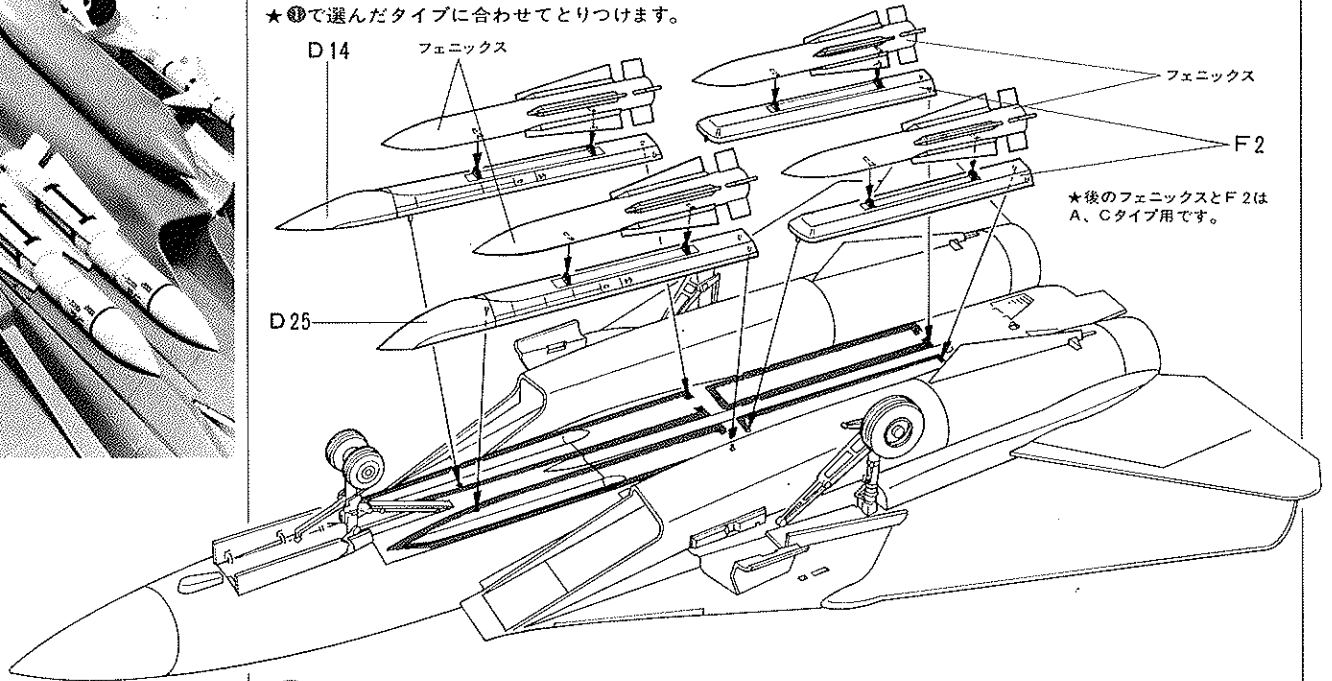


27

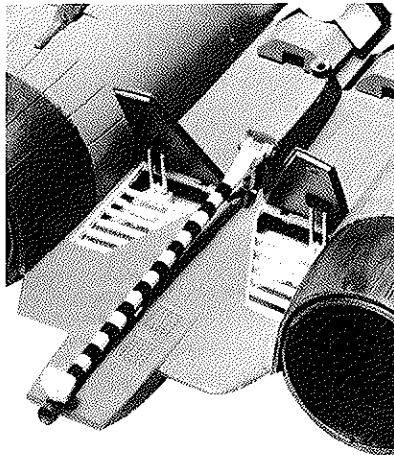


27 フェニックスのとりつけかた

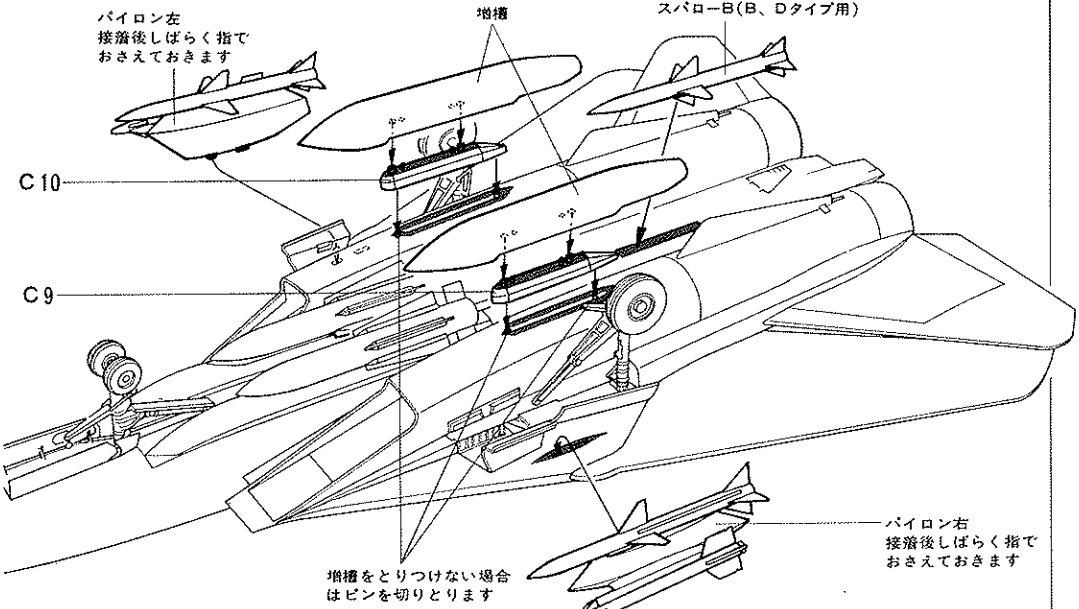
★①で選んだタイプに合わせてとりつけます。



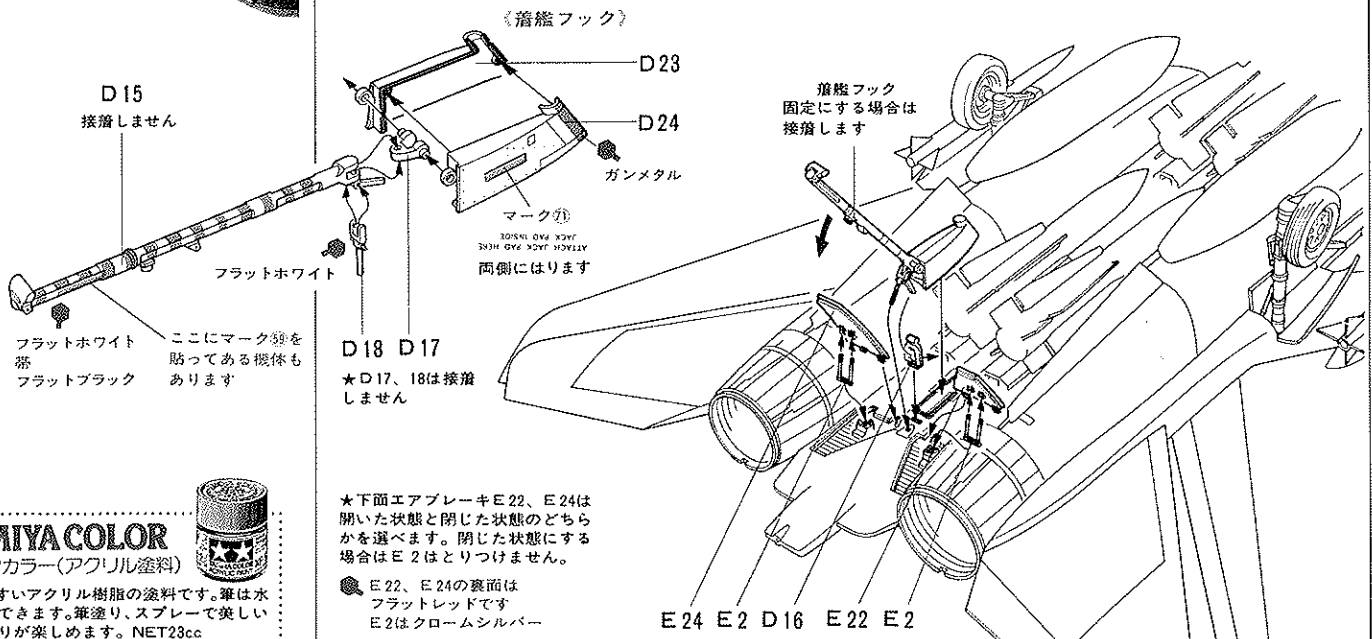
29



28 パイロンと増槽のとりつけかた



29 着艦フックのくみたととりつけ



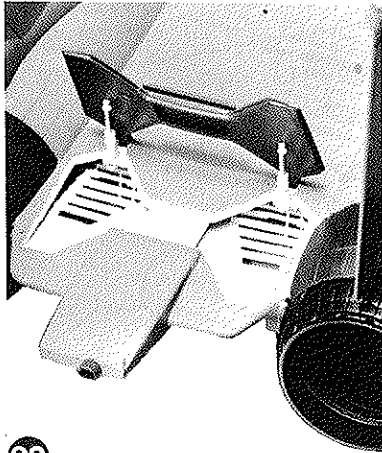
TAMIYA COLOR
タミヤカラー(アクリル塗料)



ぬりやすいアクリル樹脂の塗料です。筆は水洗いもできます。筆塗り、スプレーで美しい仕上がりが楽しめます。NET23cc

31

A 10のエアブレーキは、④で取り付け
たE 22、E 24と連動します。E 22、E
24を開いた場合はA 10も開いた状態
になります。

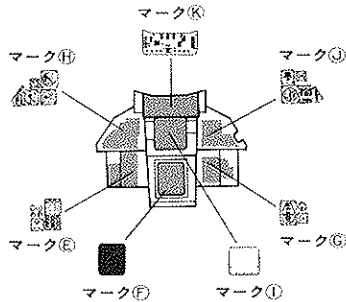


32

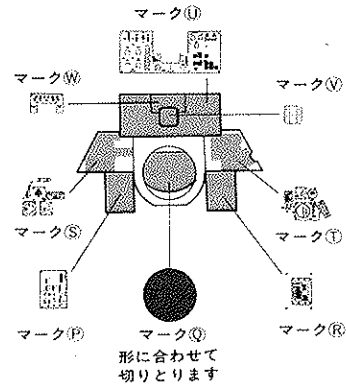
《計器板のマーキング》

組み立てる前にマークを貼ります

《計器板前》 E 21



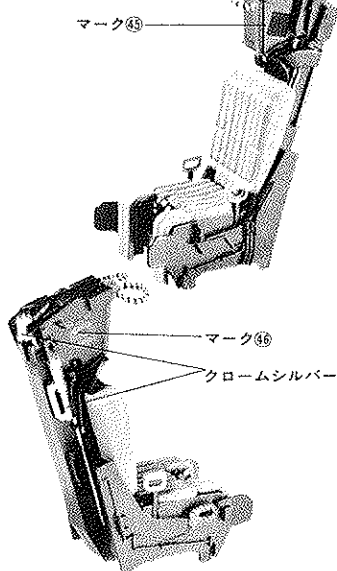
《計器板後》 E 25



33

箱側面の絵も塗装の参考にして下さい

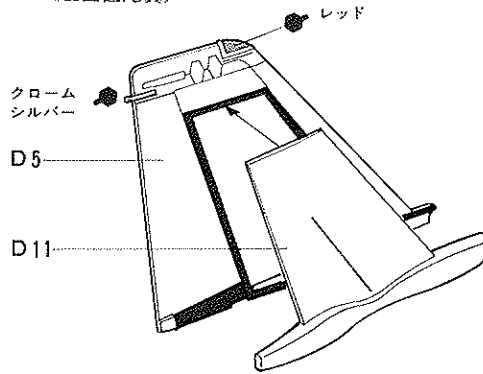
フラットイエローに
フラットブラックのストライプ



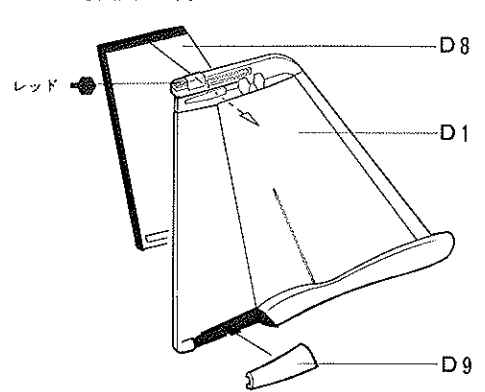
30

垂直尾翼のくみため

《左垂直尾翼》

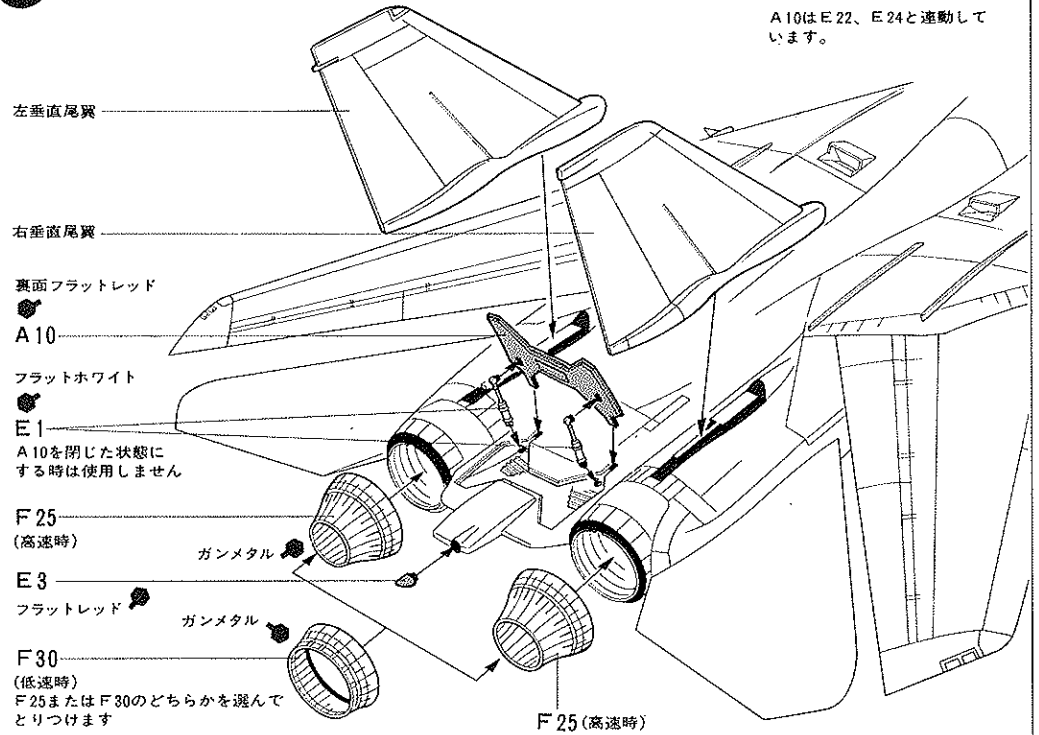


《右垂直尾翼》



31

垂直尾翼のとりつけ

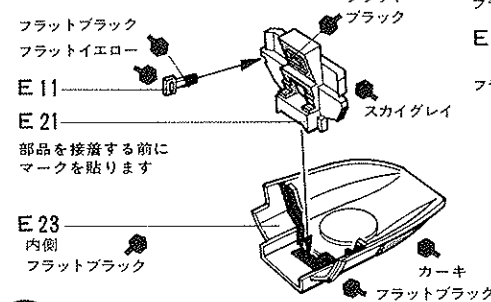


A 10はE 22、E 24と連動して
います。

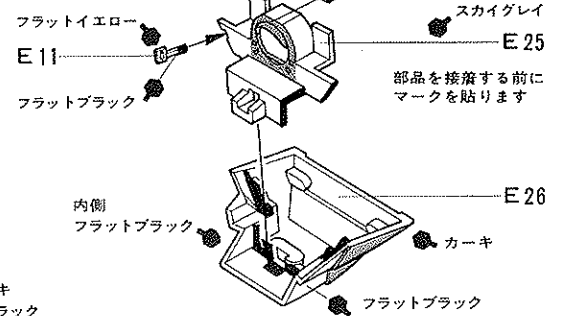
32

計器板のくみため

《計器板前》



《計器板後》

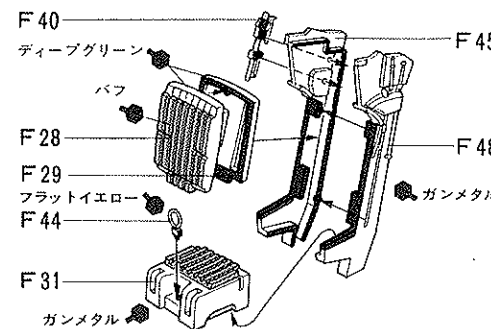


33

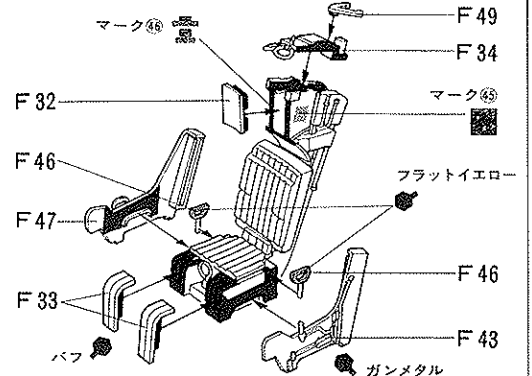
座席のくみため

2個作ります

《シートのとつけ》

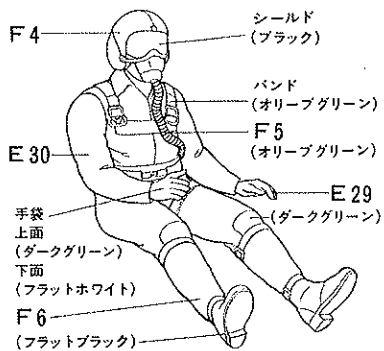


《ヘッドレストのとつけ》

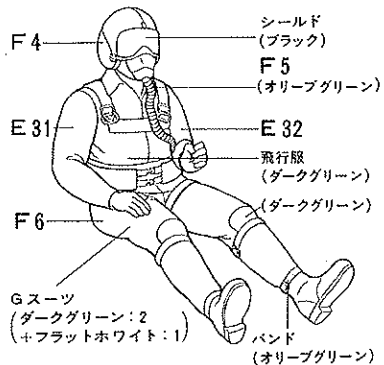


34

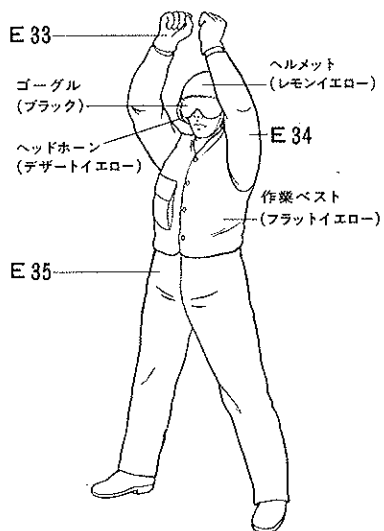
〈パイロット〉



〈火器管制士〉



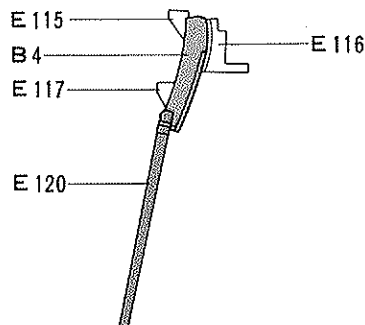
〈カタパルトクルー〉



パイロットのヘルメットは各部隊または個人により塗装が異なります。カタパルトクルーの塗装も塗装指示がないところは好きな色で塗装して下さい。

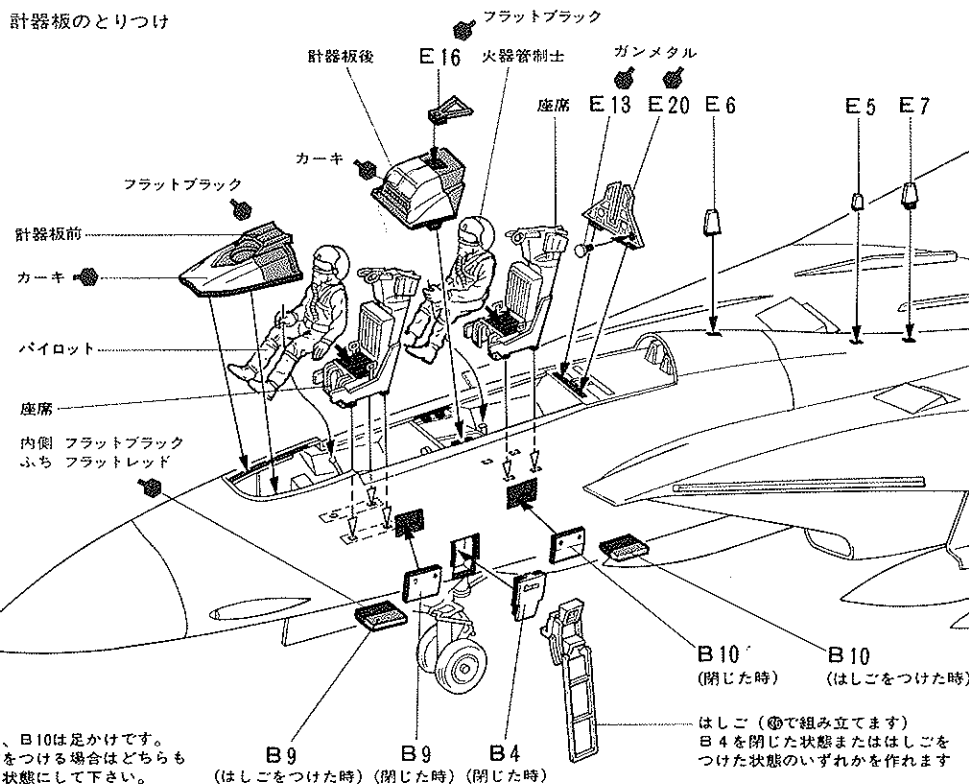
36 〈風防のとりつけ〉

〈はしごの組み立て参考図〉



34

計器板のとりつけ

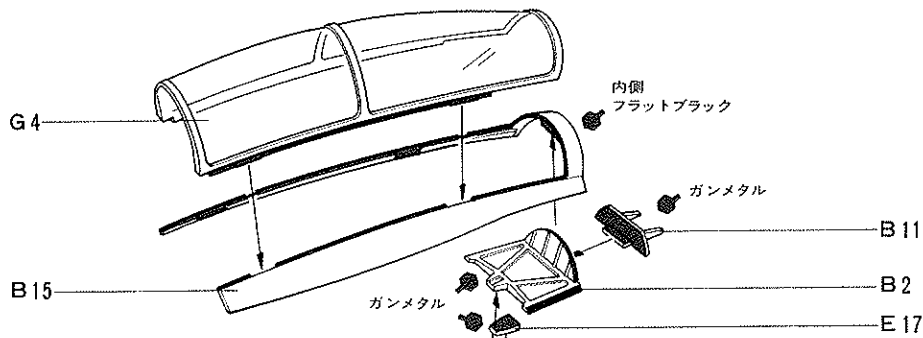


★B 9、B 10は足かけです。はしごをつける場合はどちらも開けた状態にして下さい。

はしご (Ⓞで組み立てます) B 4 を閉じた状態またははしごをつけた状態のいずれかを作れます

35

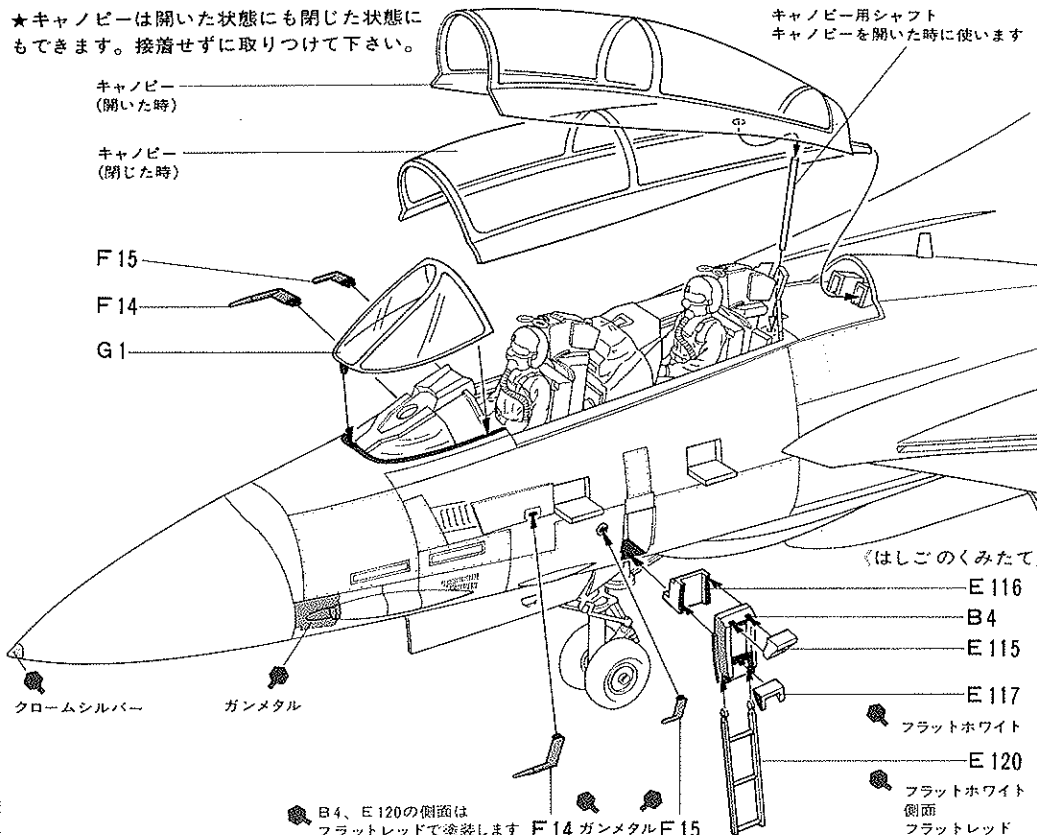
キャノピーのくみたち



36

風防のとりつけ

★キャノピーは開いた状態にも閉じた状態にもできます。接着せずに取りつけて下さい。



● B 4、E 120の側面はフラットレッドで塗装します F 14 ガンメタル F 15

〈F-14A トムキャットの塗装について〉

アメリカ海軍の主力戦闘機F-14A トムキャットは基本的には海軍の標準塗装が施されています。標準塗装はF-14A トムキャットがデビューした当時は上面がライトカブリ、下面がホワイトの塗り分けでした。しかし、1979年前後からは次第に全面グレイ色の塗装へと変更され、尾翼のマーキングも地味なものになったようです。これは、空中戦での迷彩効果を考えたもので、より実戦的な塗装になったと言えます

るでしょう。

キットのマークはアメリカ海軍のものが2種類とイラン空軍のもの1種類が入っています。チェックメーツ機は空母コンステレーションに搭載されているものでVF-211所属です。ラダーのチェック模様が特徴となっています。全面グレイの塗装になった後も、司令の乗機のマーキングだけは赤と白のチェック模様が残されていました。

ドクロマークが特徴のジョリー・ロジャース

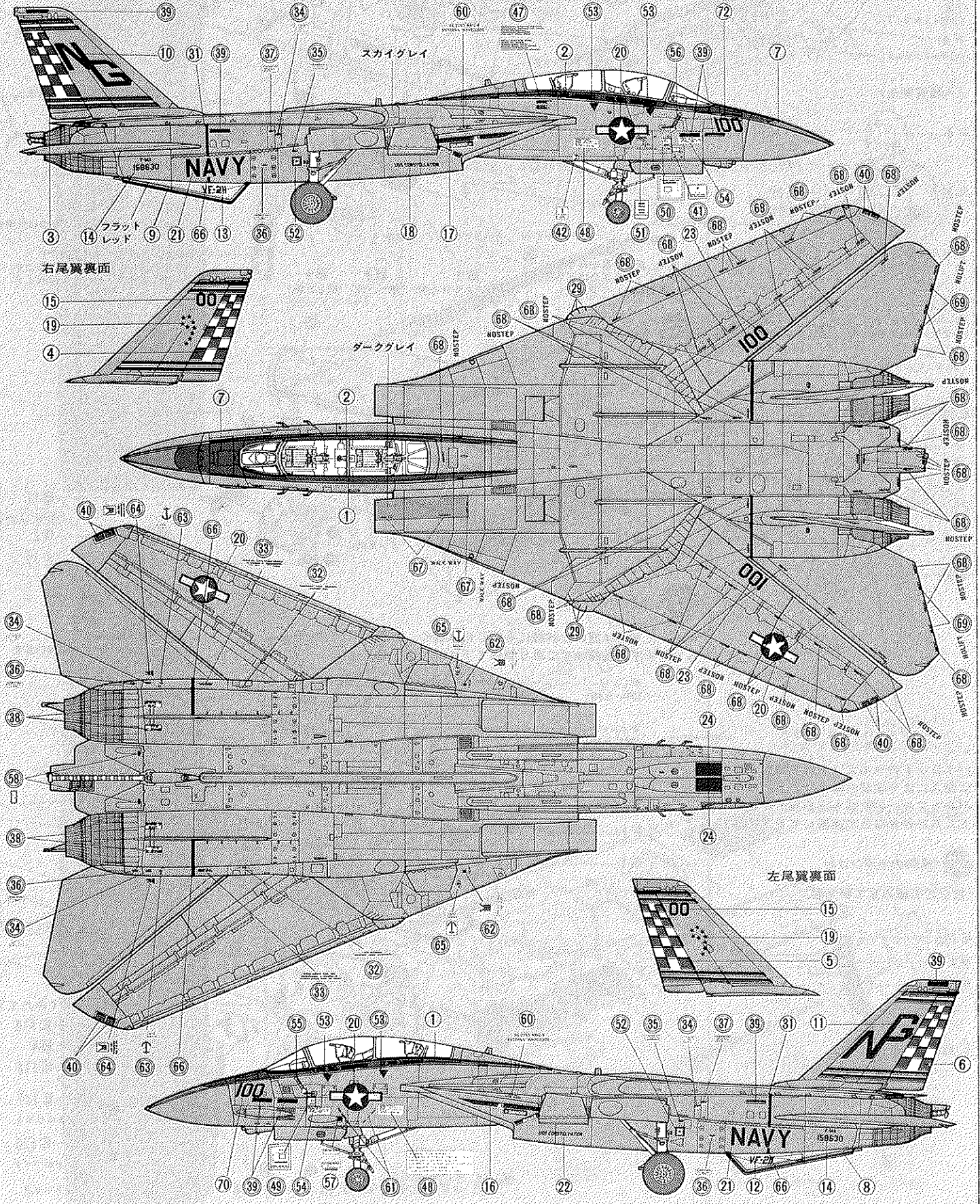
機はVF-84所属機で、原子力空母ニミッツに搭載されています。派手なマーキングはグレイ一色になった後もそのまま残されていたようです。

アメリカ海軍機とはまた違ったふんいきを持っているのがイラン空軍機です。砂漠地域での行動に合わせて4色の迷彩が施されています。細部の塗装は組立て図中に示してあります。また、スライドマークは下図及びP15を参考に貼って下さい。

VF-211 チェックメーツ

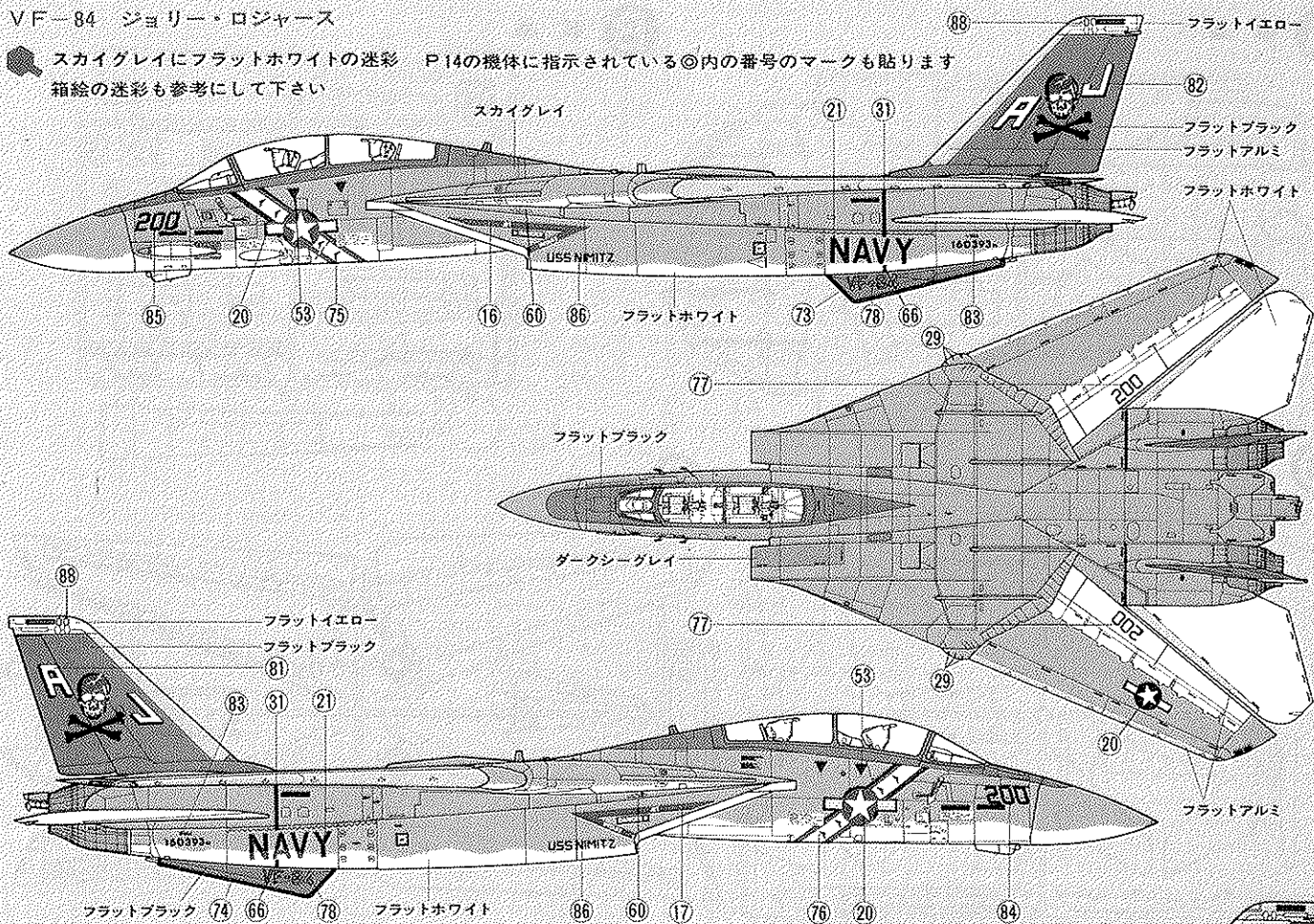
● 全面スカイグレイ色
箱絵のように2色迷彩の時もありました。

★下図で指示してある◎内の番号のマークはP15の2機の機体にも貼る共通マークです



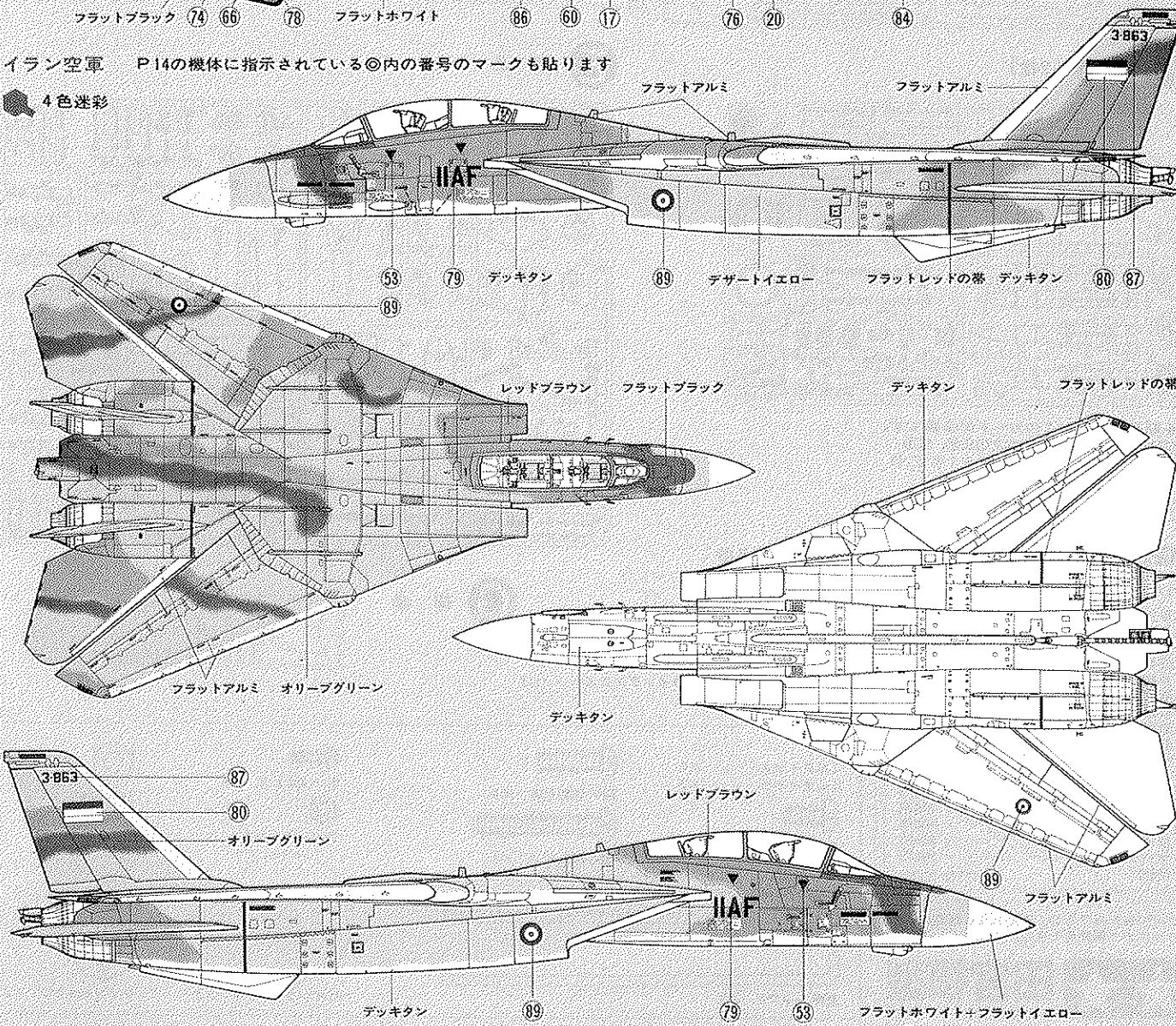
VF-84 ジョリー・ロジャース

スカイグレイにフラットホワイトの迷彩 P 14の機体に指示されている◎内の番号のマークも貼ります
箱絵の迷彩も参考にして下さい

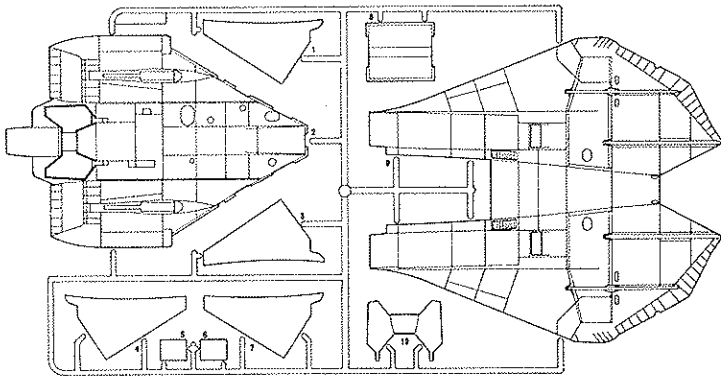


イラン空軍 P 14の機体に指示されている◎内の番号のマークも貼ります

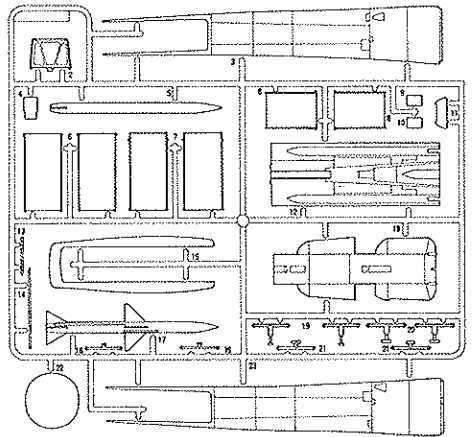
4色迷彩



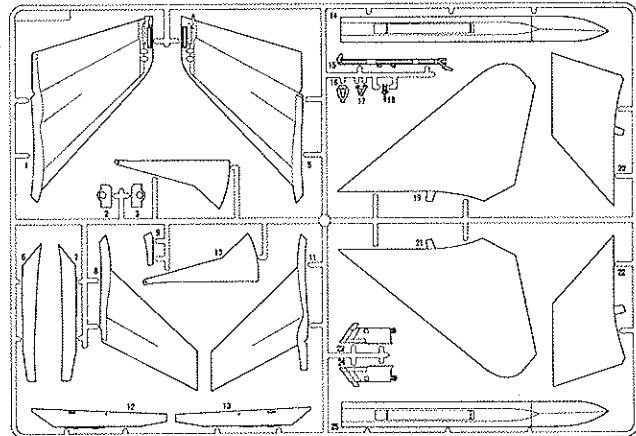
A 部品



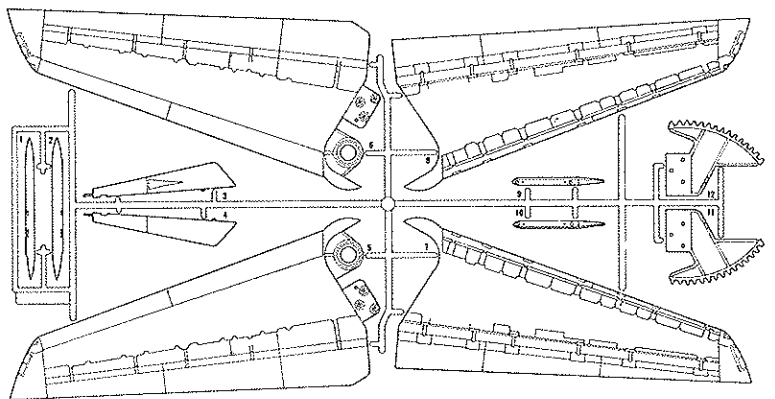
B 部品



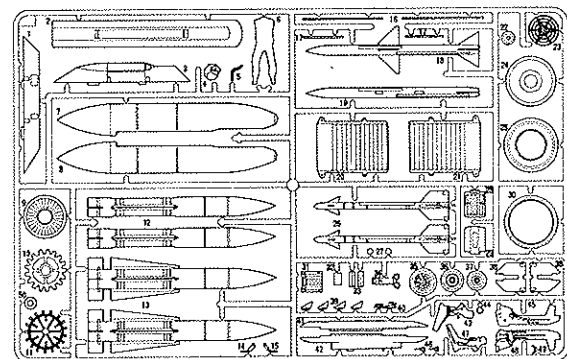
D 部品



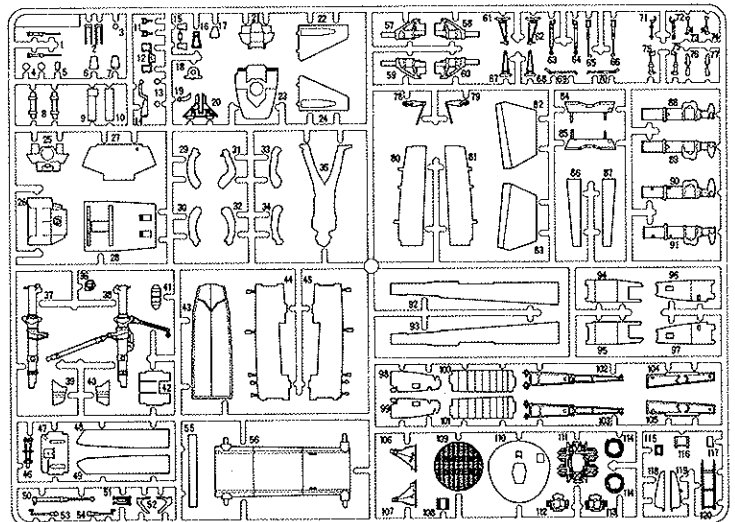
C 部品



F 部品 (2枚)



E 部品



★部品請求にはこのカードが必要です。
部品請求をなさる方はあなたの氏名、住所、
郵便番号 (できれば電話番号) を1字づつは
つきりとお書き下さい。

GRUMMAN F14A TOMCAT

1/32 F14A トムキャット

部品を紛失したり、破損なされた方は、
このカードの必要部品を丸でかこみ代
金を現金書留又は定額為替にて、田宮
模型企画部検査課迄お申し込み下さい。

- A 部品..... 1,200円
- B 部品..... 1,200円
- C 部品..... 1,200円
- D 部品..... 1,300円
- E 部品..... 1,300円
- F 部品 (1枚)..... 1,000円
- G 部品..... 600円
- 機首左右..... 600円
- 機体下部..... 1,400円
- 金具袋詰..... 400円
- ウイングステイ..... 350円
- マーク..... 500円

0392 ITEM 60301

上記の価格は予告なく変更となる場合が、あ
りますので御了承下さい。



静岡市恩田原3-7 千422

その他の部品類

- 機首左.....×1
- 機首右.....×1
- 機体下部.....×1
- マーク.....×1

M 部品 ウイングステイ.....×1

- ゴムタイヤ大.....×2
- ゴムタイヤ小.....×2

- 3φ×6丸ビス ×4
- 3φ×20丸ビス ×1

キャノピー用シャフト ×1

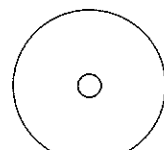
前脚シャフト ×1

主脚シャフト ×2

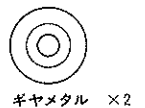
G 部品



- 2φ×6丸ビス ×6
- 2φナット ×6
- 3φナット ×1



ウイングワッシャ ×2



ギヤメタル ×2

ウイングメタル ×2